目次

Ⅰ カリキュラム		ページ
・カリキュラム		3
・カリキュラムマップ（授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連表）		4
・カリキュラムツリー		5
Ⅱ 共通科目	科目責任者	ページ
・医療倫理学特論	大林　雅之	8
・教育学特論	稲川　英嗣	10
・研究特論	竹内　文乃	12
・保健福祉学特論	竹本　与志人	14
Ⅲ 基礎科目	科目責任者	ページ
・高等教育学	小柳　正司	18
・保健医療学基盤研究	古屋　博行	20
・保健医療学実践研究	喜多村 健	22
Ⅳ 専門科目	科目責任者	ページ
・健康支援ケアシステム学特論	川本　利恵子	26
・健康支援ケアシステム学演習	川本　利恵子	28
・地域生活ケアシステム学特論	本田　芳香	30
・地域生活ケアシステム学演習	本田　芳香	32
・生涯発達ケアシステム学特論	山﨑　圭子	34
・生涯発達ケアシステム学演習	山﨑　圭子	36
・地域生活支援学特論	山田　拓実	38
・地域生活支援学演習	山田　拓実	40
・身体機能支援医療学特論	田邉　浩文	42
・身体機能支援医療学演習	田邉　浩文	44
Ⅴ 特別研究科目	科目責任者	ページ
・看護学特別研究	川本　利恵子	48
・看護学特別研究	石川　眞里子	50
・看護学特別研究	牛田　貴子	52
・看護学特別研究	片山　典子	54
・看護学特別研究	本田　芳香	56
・看護学特別研究	村嶋　幸代	58
・看護学特別研究	山﨑　圭子	60
・看護学特別研究	山勢　善江	62
・看護学特別研究	渡部　節子	64
・リハビリテーション学特別研究	田邉　浩文	66
・リハビリテーション学特別研究	大森　圭貢	68
・リハビリテーション学特別研究	鈴木　雄介	70
・リハビリテーション学特別研究	森尾　裕志	72
・リハビリテーション学特別研究	山田　拓実	74
・リハビリテーション学特別研究	増田　雄亮	76
Ⅵ 教員一覧		ページ
・教員一覧		81

Ⅰ　カリキュラム

Ⅰ－1 カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	備考
共通科目		医療倫理学特論	1通	2			○			
		教育学特論	1通		2		○			
		研究特論	1通		2		○			
		保健福祉学特論	1通		2		○			
		小計（4科目）	―	2	6		―			
基礎科目		高等教育学	1通		2		○			
		保健医療学基盤研究	1通		2		○			オムニバス
		保健医療学実践研究	1通		2		○			オムニバス・共同(一部)
		小計（3科目）	―		6		―			
専門科目	看護学領域科目	健康支援ケアシステム学特論	1前		2		○			オムニバス
		健康支援ケアシステム学演習	1後		4			○		共同
		地域生活ケアシステム学特論	1前		2		○			オムニバス
		地域生活ケアシステム学演習	1後		4			○		共同
		生涯発達ケアシステム学特論	1前		2		○			オムニバス
		生涯発達ケアシステム学演習	1後		4			○		共同
		小計（6科目）	―		18		―			
	リハビリテーション学領域科目	地域生活支援学特論	1前		2		○			オムニバス
		地域生活支援学演習	1後		4			○		オムニバス
		身体機能支援医療学特論	1前		2		○			オムニバス・共同(一部)
		身体機能支援医療学演習	1後		4			○		オムニバス・共同(一部)
		小計（4科目）	―		12		―			
特別研究科目	看護学領域科目	看護学特別研究	1～3		10			○		共同(一部)
	リハビリテーション学領域科目	リハビリテーション学特別研究	1～3		10			○		共同(一部)
		小計（2科目）	―		20		―			
合計（19科目）			―	2	50		―			

【学位】 修了要件及び 履修方法	【博士（看護学）】 共通科目から4単位（必修科目2単位、選択科目2単位以上）、基礎科目から2単位以上、専門科目内「看護学領域科目」から6単位以上（選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上）及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。 【博士（リハビリテーション学）】 共通科目から4単位（必修科目2単位、選択科目2単位以上）、基礎科目から2単位以上、専門科目内「リハビリテーション学領域科目」から6単位以上（選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上）及び特別研究科目から10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。

Ⅰ－2 カリキュラムマップ

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	博士後期課程のディプロマ・ポリシー（D-DP）					看護学領域のディプロマ・ポリシー（DP-N）					リハビリテーション学領域のディプロマ・ポリシー（DP-R）				
					D-DP① 自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	D-DP② 研究能力・コミュニケーション能力	D-DP③ 多職種協働における管理・指導能力	D-DP④ 教育実践能力	D-DP⑤ 高い倫理観	DP-N① 自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	DP-N② 研究能力・コミュニケーション能力	DP-N③ 多職種協働における管理・指導能力	DP-N④ 教育実践能力	DP-N⑤ 高い倫理観	DP-R① 自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	DP-R② 研究能力・コミュニケーション能力	DP-R③ 多職種協働における管理・指導能力	DP-R④ 教育実践能力	DP-R⑤ 高い倫理観
共通科目		医療倫理学特論	1通	2	◎	◎		◎	◎					◎					◎
		教育学特論	1通	2									◎					◎	
		研究特論	1通	2							◎					◎			
		保健福祉学特論	1通	2						◎					◎				
基礎科目		高等教育学	1通	2		◎	◎	◎	◎			◎	◎				◎	◎	
		保健医療学基盤研究	1通	2							◎					◎			
		保健医療学実践研究	1通	2								◎					◎		
専門科目	看護学領域科目	健康支援ケアシステム学特論	1前	2	◎		○	○		◎		○	○						
		健康支援ケアシステム学演習	1後	4	○	◎	◎		○	○	◎	◎		○					
		地域生活ケアシステム学特論	1前	2	◎		○	○		◎		○	○						
		地域生活ケアシステム学演習	1後	4	○	◎	◎		○	○	◎	◎		○					
		生涯発達ケアシステム学特論	1前	2	◎		○	○		◎		○	○						
		生涯発達ケアシステム学演習	1後	4	○	◎	◎		○	○	◎	◎		○					
	リハビリテーション学領域科目	地域生活支援学特論	1前	2	◎		○	○							◎		○	○	
		地域生活支援学演習	1後	4	○	◎	◎		○						○	◎	◎		○
		身体機能支援医療学特論	1前	2	◎		○	○							◎		○	○	
		身体機能支援医療学演習	1後	4	○	◎	◎		○						○	◎	◎		○
特別研究科目	看護学領域科目	看護学特別研究	1～3通	10	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎					
	リハビリテーション学領域科目	リハビリテーション学特別研究	1～3通	10											◎	◎	○	○	◎

Ⅰ－3 カリキュラムツリー

博士後期課程修了認定・学位授与
（Completion of Doctoral Program / Conferment of Degree）

博士後期課程のディプロマ・ポリシー（D-DP）

- D-DP①　自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル
- D-DP②　研究能力、コミュニケーション能力
- D-DP③　多職種協働における管理・指導能力
- D-DP④　教育実践能力
- D-DP⑤　高い倫理観

看護学領域のディプロマ・ポリシー（DP-N）

- DP-N①　自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル
- DP-N②　研究能力、コミュニケーション能力
- DP-N③　多職種協働における管理・指導能力
- DP-N④　教育実践能力
- DP-N⑤　高い倫理観

リハビリテーション学領域のディプロマ・ポリシー（DP-R）

- DP-R①　自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル
- DP-R②　研究能力、コミュニケーション能力
- DP-R③　多職種協働における管理・指導能力
- DP-R④　教育実践能力
- DP-R⑤　高い倫理観

共通科目・基礎科目・専門科目　　※1年次履修状況に応じて2年次も履修可能

看護学領域　専門科目

健康支援ケアシステム学特論（選択）	
D-DP	①・③・④に対応
DP-N	①・③・④に対応

健康支援ケアシステム学演習（選択）	
D-DP	①・②・③・⑤に対応
DP-N	①・②・③・⑤に対応

地域生活ケアシステム学特論（選択）	
D-DP	①・③・④に対応
DP-N	①・③・④に対応

地域生活ケアシステム学演習（選択）	
D-DP	①・②・③・⑤に対応
DP-N	①・②・③・⑤に対応

生涯発達ケアシステム学特論（選択）	
D-DP	①・③・④に対応
DP-N	①・③・④に対応

生涯発達ケアシステム論学演習（選択）	
D-DP	①・②・③・⑤に対応
DP-N	①・②・③・⑤に対応

リハビリテーション学領域　専門科目

地域生活支援学特論（選択）	
D-DP	①・③・④に対応
DP-R	①・③・④に対応

地域生活支援学演習（選択）	
D-DP	①・②・③・⑤に対応
DP-R	①・②・③・⑤に対応

身体機能支援医療学特論（選択）	
D-DP	①・③・④に対応
DP-R	①・③・④に対応

身体機能支援医療学演習（選択）	
D-DP	①・②・③・⑤に対応
DP-R	①・②・③・⑤に対応

専門科目（各領域）

看護学領域・リハビリテーション学領域（2領域共通）　共通科目・基礎科目

医療倫理学特論（必須）	
D-DP	①・②・④・⑤に対応
DP-N	⑤に対応
DP-R	⑤に対応

教育学特論（選択）	
D-DP	①・②・④・⑤に対応
DP-N	④に対応
DP-R	④に対応

高等教育学（選択）	
D-DP	②・③・④・⑤に対応
DP-N	③・④に対応
DP-R	③・④に対応

保健医療学基盤研究（選択）	
D-DP	②・③・④・⑤に対応
DP-N	②に対応
DP-R	②に対応

研究特論（選択）	
D-DP	①・②・④・⑤に対応
DP-N	②に対応
DP-R	②に対応

保健福祉学特論（選択）	
D-DP	①・②・④・⑤に対応
DP-N	①に対応
DP-R	①に対応

保健医療学実践研究（選択）	
D-DP	②・③・④・⑤に対応
DP-N	③に対応
DP-R	③に対応

共通科目・基礎科目

博士論文発表会

学位論文審査会
（dissertation presentation）

博士論文中間報告会
（Interim presentation）

研究進捗状況報告
（学会発表・論文投稿等）

研究進捗状況報告
（学会発表・論文投稿等）

博士論文中間報告会
（Interim presentation）

研究指導教員・副指導教員　報告
（Annual presentation Ⅰ）

研究課題・研究計画書

研究指導員・副指導教員の決定

入学ガイダンス

年次

年次			
3年次	D-DP	①・②・③・④・⑤に対応	リハビリテーション学特別研究（選択）　学位論文作成
2年次	DP-R	①・②・③・④・⑤に対応	看護学特別研究（選択）　学位論文作成
1年次			

Ⅱ　共通科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
医療倫理学特論	講義	必修	大林　雅之
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-N⑤、DP-R⑤

授業概要

医療・保健・福祉分野の研究者や専門職に対して、近年、患者・利用者等の人権尊重が強調される社会的背景から、倫理問題の発見・対応能力が求められている。そこでの能力は、個人的資質によるだけではなく、倫理指針や関連する法律による制度への社会的対応能力が必要とされている。本授業では、医療倫理学に関する学説、理論、制度などとその歴史的な背景についての講義と具体的な事例検討を通して、倫理問題への理解と実践的な対応能力を育成する。

到達目標

1)医療における倫理的対応の歴史についての理解を踏まえて、医療倫理学の歴史的変遷、及び「新しい医療倫理学」としての「バイオエシックス（生命倫理学）」の成立について説明できる。
2)現代の医療における倫理的対応をめぐる課題について指摘でき、その対応の具体的な内容を考察し、説明できる。
3)医療・保健・福祉等の分野の研究の計画及び実践における倫理的配慮に関して、各種の研究指針、ガイドライン、法律等を理解し、具体的な対応を実践できる。

	テーマ	内容	担当教員
1	医療倫理学の歴史的変遷（1）：医療倫理学の歴史	医療における倫理的対応のあり方、専門職の倫理綱領などの歴史的変遷を理解する。	大林　雅之
2	医療倫理学の歴史的変遷（2）：バイオエシックス（生命倫理学）の成立	新しい医療倫理学としての「バイオエシックス（生命倫理学）」が成立した社会的背景を理解する。	大林　雅之
3	医療倫理学の歴史的変遷（3）：日本におけるバイオエシックスの受容と課題	日本における「バイオエシックス（生命倫理学）」の導入と展開について理解する。	大林　雅之
4	現代の医療における倫理問題（1）：生命科学・医学研究の倫理	遺伝子研究・再生医療技術をめぐる倫理問題について理解し、討論を行う。	大林　雅之
5	現代の医療における倫理問題（2）：生殖補助技術・出生前診断の倫理	人工授精・体外受精などの生殖補助技術及び出生前診断をめぐる倫理問題を理解し、討論する。	大林　雅之
6	現代の医療における倫理問題（3）：終末期医療の倫理	終末期医療（エンド・オブ・ライフ・ケア、アドバンス・ケア・プランニングなどを含む）をめぐる倫理問題を理解し、討論する。	大林　雅之

7	現代の医療における倫理問題（4）：先端医療技術の倫理	臓器移植（異種移植、人工臓器なども含む）、脳神経科学、AI利用医療などの先端医療技術をめぐる倫理問題を理解し、討論する。	大林　雅之
8	現代の医療における倫理問題（5）：安楽死・尊厳死の倫理	安楽死・尊厳死をめぐる議論の歴史を理解し、その実践の外国における現状と日本における議論の問題点を理解し、討論する。	大林　雅之
9	研究における倫理問題（1）：医学研究をめぐる倫理問題の歴史	研究における人間を対象とする実験をめぐる倫理問題の議論の歴史について理解し、討論する。	大林　雅之
10	研究における倫理問題（2）：倫理指針・ガイドライン・法律等による対応	研究に関する倫理指針、ガイドライン、法律等について具体的に取り上げ、その内容について理解し、検討する。	大林　雅之
11	研究における倫理問題（3）：研究計画における倫理的配慮	人間を対象とする研究を計画する場合の倫理的配慮について理解し、研究計画書に必要な記載事項と書き方について習得する。	大林　雅之
12	研究における倫理問題（4）：研究論文作成上の倫理的配慮	人間を対象とする研究を論文にする場合に注意すべき倫理的配慮、特に、被験者の同意、データ・文献の引用、研究資金の獲得・使用などをめぐる不正防止について理解する。	大林　雅之
13	研究計画書検討（1）	受講生が想定する研究に基づいて仮の研究計画書を作成してもらい、特に倫理的配慮に関する事項の記載について検討する。	大林　雅之
14	研究計画書検討（2）	受講生が第13回の内容を踏まえて作成した研究計画書について各自発表を行う。	大林　雅之
15	総合討論：日本における医療倫理学の未来と課題	第1―14 回の内容を踏まえて、「日本における医療倫理学の未来と課題」をテーマに総合討論を行い、最終レポートを作成する。	大林　雅之

評価	(評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況（小レポート、討論への参加状況、コメントを含む）50%、最終レポート50%の割合で評価する。
教科書	特に指定しない。資料を適宜配布する。
参考図書 参考WEBページ	授業中に適宜指示する。
事前・事後学習 留意事項	日常的に医療倫理学に関する論点、トピックスに関心を持ち、新聞やニュースなどでの報道に注意する。授業は講義形式で行うが、適宜、文献購読、討論、レポート発表なども行う。
事前・事後学習 留意事項	日常的に医療倫理学に関する論点、トピックスに関心を持ち、新聞やニュースなどでの報道に注意する。授業は講義形式で行うが、適宜、文献購読、討論、レポート発表なども行う。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
教育学特論	講義	選択	稲川　英嗣
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-N④、DP-R④

授業概要

本特論では、「教育とは何をすることなのか」といった原理的な問いに始まり、様々な教育思想家の言葉をヒントに、教育学の基礎概念を理解していく。ただし、教育学は考え方を理解するだけのものではない。実際にやってみる、行動に移せることが重要な要素となっている。そこで本特論では、学んだ考えを実践してみて実践力を身につけることを通して、その力を多職種連携教育を実践できる力につなげていけるようにする。
まずは教育思想、教授理論に加え、教育制度まで概観できるようにして、教育学一般への理解を深めるようにする。次に古典的な教授理論を理解した上で、近年のワークショップの実践、コミュニケーション論、そして看護・リハビリテーション教育にとっても重要な成人教育の手法を理解することとする。その上で最後に、高等教育におけるFDの動向などを把握することに努める。

到達目標

1)教育の基礎理論、教授理論を理解し、実践できるようにする。
2)教育課程の編成をはじめとした、教育経営を理解し、実践できるようにする。
3)ワークショップの実践を通して、コミュニケーション論についての理解を深める。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	教育学を学ぶことの意義、教育の目的・目標について理解する	教育に関して法令ではどのような規定のされ方をしているのかを見ることで、教育は単なる情報の伝達では無いことに気づく。	稲川　英嗣
2	「指示する」ことと「教える/学ぶ」こととの違いについて理解をする	ソクラテスの「無知の知」から始まる教授理論が最初から「教える」こと=「気づかせる」ことだった意味を考える。	稲川　英嗣
3	教育において「直観」が重視されることの意味を理解する	コメニウス、ペスタロッチの系譜から実物教授まで直観教授の理論と実践を学ぶ。	稲川　英嗣
4	「経験主義」が教育界にもたらした大きな転換を理解する	デューイやモンテッソーリがもたらした教育界へのインパクトについて検証していく。	稲川　英嗣
5	「いのちの授業」は可能なのか、について考える	生活綴り方をベースに「いのち」について考えさせる教育実践があったことを紹介し、その意味について話し合う。	稲川　英嗣
6	系統学習を理論的に支えるプログラム学習の考え方を理解する	知識を効果的に身に付けさせる学習心理学の理論からできたプログラム学習について学んでいく。	稲川　英嗣
7	教育課程(カリキュラム)を編成するにあたって必要な考え方について学ぶ	ヘルバルトを通して、指導計画作成の考え方、本時案作成と授業の実際、質問と発問の違いについて学んでいく。	稲川　英嗣

8	学校組織と教育制度について学んでいく	教育行政・制度の仕組み、学校組織の考え方について理解できるようにする。	稲川　英嗣
9	学校病理としてのいじめ問題について知り、対処方法を考える	子どもだけではない大人の世界でも存在する「いじめ」の問題に教員はどのように対処すべきかについて考える。	稲川　英嗣
10	学級経営、仲間づくりが教育においてなぜ重要なのかを考える	アイスブレイク、エンカウンター、プロジェクトアドベンチャー(PA)などの手法が必要とされる背景を考えていく。	稲川　英嗣
11	コミュニケーション理論から教育について考える	ドラマ教育を推進する平田オリザの「わかりあえないことから」を通して、教育の前提となるコミュニケーションについて学ぶ。	稲川　英嗣
12	成人教育の前提としてのアンドラゴジーについて学ぶ	子どもを対象とした教育とは異なる、成人を対象とした教育に必要な教育方法について学ぶ。	稲川　英嗣
13	アクティブラーニングの手法について学ぶ	構成員のコミュニケーションをベースとしたアクティブラーニングの手法をいくつか学んでいく。	稲川　英嗣
14	アクティブラーニングの授業実践に取り組む	大学院生諸氏がファシリテーターとなって、アクティブラーニングを実践してみる。	稲川　英嗣
15	高等教育において現在求められていることについて検討する	FD(ファカルティ・ディベロップメント)の動向を学びながら 、これからの高等教育の在り方について検討する。	稲川　英嗣

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況（出席状況、発表、ディスカッション）60%、最終レポート40%の割合で評価する。
教科書	苫野一徳(2014)「教育の力」講談社現代新書、平田オリザ(2012)「わかりあえないことから」講談社現代新書
参考図書 参考WEBページ	授業中に適宜指示する。
事前・事後学習 留意事項	少人数で社会経験のある皆さんですので、指定した文献について担当者がレジュメを作り、それに基づいて発表してもらいます。発表しない人も文献には目を通し、一通りコメントできるようにしてください。授業後には振り返りシートを作成し、そのまとめを最終的にレポートとして提出してもらいます。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
研究特論	講義	選択	竹内　文乃
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-N②、DP-R②

授業概要

エビデンスに基づく看護学（EBN）の重要性が広く知られるようになって久しい。エビデンスの評価には、看護統計学の十分な知識に基づく論文の精読が必要となる。本授業では、医療統計学（生物統計学、看護統計学、保健統計学の一部と同義）の知識を基に論文を精読し、ディスカッションを深めることで自身の研究計画をより妥当性の高いものとする一助となることを目指す。

到達目標

量的な看護研究の解析手法を一通り理解し、自身の研究に必要なものを判断して取り扱えるようになること。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	基本的な集計とクロス集計および連続量の統計量算出（1）	量的看護研究論文におけるTable1とFigure1を複数読み込み、解析対象集団の絞り込みや集計において必要な知識を学ぶ	竹内　文乃
2	基本的な集計とクロス集計および連続量の統計量算出（2）	第1回を踏まえ、欠測データの取り扱いや処理といったより発展的なことを学ぶ	竹内　文乃
3	連続データの検定と問題点の理解	連続データの群間比較をする上で基本となる検定について統計的な理解を深め、必要に応じて自身の研究に活用できるようになる	竹内　文乃
4	カテゴリカルデータの検定と問題点の理解	カテゴリカルデータの群間比較をする上で基本となる検定について統計的な理解を深め、必要に応じて自身の研究に活用できるようになる	竹内　文乃
5	回帰分析の活用と問題点の理解	量的看護研究論文において、回帰分析が利用されているものを読み込み、利用上の問題点（リストワイズによる欠測値除去も含む）について理解をする	竹内　文乃
6	モデルに基づく複雑な回帰分析（1）	量的看護研究において、重回帰から一般化線形モデルといった、モデルに基づくより複雑な回帰分析を利用しているものを複数読み込み、利用上の問題点について理解する	竹内　文乃
7	モデルに基づく複雑な回帰分析（2）	量的看護研究において、重回帰から一般化線形モデルといった、モデルに基づくより複雑な回帰分析を利用しているものを複数読み込み、利用上の問題点について理解する	竹内　文乃

8	カテゴリカルデータ分析（1）	量的看護研究においてカテゴリカルデータ解析（層別解析、サブグループ解析、CMH解析を含む）を用いている事例を複数読み込み、利用上の問題点について理解する	竹内　文乃
9	カテゴリカルデータ分析（2）	量的看護研究においてカテゴリカルデータ解析（傾向性の検定、一般化線形モデルを含む）を用いている事例を複数読み込み、利用上の問題点について理解する	竹内　文乃
10	生存時間解析（1）	生存時間をアウトカムとした場合のデータの図示から検定までを理解し、論文を複数読みこんで利用について理解する	竹内　文乃
11	生存時間解析（2）	生存時間をアウトカムとした場合のデータの取り扱いについて、比例ハザードモデルを理解して、適用論文を複数読み込んで理解する	竹内　文乃
12	より複雑なデータ解析	プロペンシティスコア、操作変数、逆確率重み付けといった、バイアスに対処するためのより複雑な解析手法が適用された研究論文を読み、理解する	竹内　文乃
13	より複雑な研究デザイン	ケースコホート研究やネステッドケースコントロール研究といった近年よく利用される複雑な研究デザインについて理解する	竹内　文乃
14	例数設計（1）	自身の研究を立案するのに必要になる例数設計について、研究論文をベースに学ぶ	竹内　文乃
15	例数設計（2）	自身の研究を立案するために、自身でリサーチクエスチョンを基に必要な情報を理解し、例数設計ができるようになる	竹内　文乃

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況（出席状況、発表、ディスカッション）60%、最終レポート40%の割合で評価する。
教科書	適宜論文を示す。
参考図書 参考WEBページ	
事前・事後学習 留意事項	各回に示された論文を読んでくること（特に手法の部分）。
事前・事後学習 留意事項	各回に示された論文を読んでくること（特に手法の部分）。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
保健福祉学特論	講義	選択	竹本　与志人
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-N①、DP-R①

授業概要

少子高齢化の進展等に伴い、保健医療領域の支援対象者（患者・家族等）が抱える心理・社会的課題（療養する上で生じた、あるいは顕在化した様々な生活課題等）は多様化かつ複雑化してきており、保健と医療、福祉を統合した専門職・非専門職によるアプローチが求められてきている。
本講義では、保健医療と社会福祉を跨いだ学際的研究の事例（質的・量的研究の事例）を通して、統合的な研究の方法について論じる。

到達目標

1)保健医療領域の支援対象者（患者・家族等）が抱える心理・社会的課題について理解する。
2)保健医療領域における支援対象者（患者・家族等）が抱える心理・社会的課題を社会福祉の視点から明らかにし、臨床介入に資する視座を得るための研究方法を事例を通して理解する。
3)保健医療と社会福祉を跨いだ学際的研究の重要性について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	保健医療領域の支援対象者が抱える心理・社会的課題	保健医療と福祉の関係、治療に影響を及ぼす心理・社会的課題について理解する。	竹本　与志人
2	保健医療領域の支援対象者が抱える心理・社会的課題への支援方法	医療ソーシャルワーカーの業務指針を手掛かりに、保健医療領域における福祉の重要性を理解する。	竹本　与志人
3	保健医療領域の支援対象者の心理・社会的課題に関する研究の展開過程	臨床疑問の設定から研究疑問の設定、研究方法の決定、データの収集と分析、結果の判断、結果の報告といった研究の展開過程について理解する。	竹本　与志人
4	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する質的研究の事例①	慢性疾患患者（血液透析患者）の心理・社会的課題を明らかにするための質的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
5	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する質的研究の事例②	慢性疾患患者（認知症患者）の家族の心理・社会的課題を明らかにするための質的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
6	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する質的研究の事例③	慢性疾患患者（認知症患者）を支援する専門職からみた患者の心理・社会的課題を明らかにするための質的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
7	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例①	慢性疾患患者（血液透析患者）の心理・社会的課題を明らかにするための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人

8	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例②	慢性疾患患者（血液透析患者）の家族の心理・社会的課題を明らかにするための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
9	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例③	慢性疾患患者（パーキンソン患者）の心理・社会的課題を明らかにするための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
10	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例④	慢性疾患患者（パーキンソン病患者）の家族の心理・社会的課題を明らかにするための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
11	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例⑤	慢性疾患患者（血液透析患者）とその家族の心理・社会的課題の解決に有用な臨床介入の視座を得るための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
12	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例⑥	慢性疾患患者（認知症患者）を地域で支えるためのソーシャルサポートネットワークに関する量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
13	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例⑦	慢性疾患患者（認知症患者）を地域で支える専門職の実践上の課題を明らかにするための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
14	保健医療領域における支援対象者の心理・社会的課題に関する量的研究の事例⑧	慢性疾患患者（認知症患者）を地域で支える専門職の援助行動を促進するための研究立案に有用な視座を得るための量的研究の方法を事例を通して学ぶ。	竹本　与志人
15	保健医療と福祉の統合的研究	保健医療と福祉の統合的研究の重要性について、4-14回までの研究事例を手掛かりにレポートを作成し、発表を行う。	竹本　与志人

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況（ディスカッション、コメント含む）：30%、最終レポート（発表内容含む）：70%の割合で評価する。
教科書	杉山京・竹本与志人編著（2022）『ソーシャルワーク実践のための量的研究法』大学教育出版
参考図書 参考WEBページ	竹本与志人（2022）『認知症のある人の経済支援　介護支援専門員への期待』法律文化社 その他、講義に使用する研究論文等については授業中に適宜指示する。
事前・事後学習 留意事項	博士前期課程までに習得した質的・量的研究法について復習を行うこと。 （*）本授業は、オンライン形式により実施する。

Ⅲ　基礎科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
高等教育学	講義	選択	小柳　正司
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-N③、DP-N④、DP-R③、DP-R④

授業概要

教育人間学の知見に基づき、医療・看護・福祉の視点から教育労働の本質を捉える。内容的には以下の4つのテーマに即して、文献講読と課題学習に取り組む。
①生命の再生産と教育：教育本質論、②生命の繋がりと教育：ホリスティック教育の展開、③教育的ケア論の理論と実践、④少子高齢化社会とデスエデュケーションの課題

到達目標

1）医療・看護・福祉と教育労働との本質的なつながりを捉えることができる。
2）教育者としての見識を深め、自らの課題を発見し省察できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	教育の本質を捉える（1）	文化人類学等の知見に基づき、「教育」を 人間に固有の「種の再生産」の営みとして捉える教育思想について、文献資料に基づき理解を深める。	小柳　正司
2	教育の本質を捉える（2）	日本民俗学の知見に基づき、民衆の子生み、子育ての世界観を通して、「生命（いのち）」を慈しむ文化の継承について考察する。	小柳　正司
3	教育の本質を捉える（3）	教育の概念が時代により変化してきたことを踏まえ、「学校化社会」と言われる現代教育の特色と課題を考察する。	小柳　正司
4	ホリスティック教育（1）	心と体と精神の一体性を取り戻すホリスティック教育の考え方について概説するとともに、医療、看護、福祉と教育とのつながりについて考究する。	小柳　正司
5	ホリスティック教育（2）	ホリスティック教育の実践例をいくつか取り上げ、具体的な実践方法と、その背後にある教育者の知見や見識を分析するとともに、従来型の教授・学習過程との違いを考究する。	小柳　正司
6	ホリスティック教育（3）	「自己実現」をめざすホリスティック教育の心理学的原理について、マズロー、ロジャーズなどを取り上げて考究する。	小柳　正司
7	ホリスティック教育（4）	心と体と精神の一体性を強調するホリスティック教育の意義を医療や福祉の現場の状況を踏まえながら考究する。	小柳　正司
8	ホリスティック教育（5）	ホリスティック教育は教育の方法・技術ではなく、教育者としての生き方であることを、ホリスティック教育の先駆的教育家たちの業績を手掛かりにして理解を深める。	小柳　正司

9	教育的ケア論（1）	医療・看護・介護と教育をつなぐケアの社会倫理学を概説し、ケア論を踏まえた医療看護教育実践の課題を考究する。	小柳　正司
10	教育的ケア論（2）	近年関心が高まっている「包括的ケア」の考え方について理解を深めるとともに、医療従事者間の多職種連携（チーム医療）に向けた医療教育の課題を確認する。	小柳　正司
11	教育的ケア論（3）	多職種連携教育（IPE）の先進的な実践例を参考に、医療従事者に向けた多職種連携教育の具体的な目標と方法・技術について理解を得る。	小柳　正司
12	教育的ケア論（4）	「ケア」の思想及び実践の偉大な先駆者であるマリア・モンテッソーリの教育思想を学ぶ。	小柳　正司
13	教育的ケア論（5）	キャロル・ギリガンの発達研究と問題提起を手掛かりに、ジェンダーの視点から医療・看護・介護の在り方を捉えなおす。	小柳　正司
14	デスエデュケーション（1）	少子高齢化社会の中の重要な教育課題としてデスエデュケーションがある。日本人の死生観と教育とのつながりを民俗学の知見に基づいて考える。	小柳　正司
15	デスエデュケーション（2）	若年者の死について考える。子供の死に対して親、医師、看護師はどう向き合い、それぞれの立場から子供の死をどう受け止めるべきなのかを事例をもとに考える。	小柳　正司

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況（小レポート、ディスカッション、コメントを含む）50%、最終ポート50%の割合で評価する。
教科書	指定文献一覧配布。その他、必要な論文、資料等を配布する。
参考図書 参考WEBページ	参考文献一覧を配布する。
事前・事後学習 留意事項	予習課題を毎回課す。また、毎回の受講記録（学習成果のまとめ、意見・感想など）を作成してもらう。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
保健医療学基盤研究	講義	選択	古屋　博行、　片山　典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年	授業終了後、2時間程度受け付ける。

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-N②、DP-R②

授業概要

保健医療学の研究では、質的研究、量的研究、そして最近では両者を取り入れた混合研究法が用いられている。これらの研究法の基礎について、それまで心理学や社会学の分野から保健医療学研究に取り込まれてきた時間的経緯に従って各手法の特徴を学習する。初学者にとって、この講義の受講だけで研究を実施することは難しいものの、これらの研究法による研究報告について解釈できることを目標とする。

また、これらの研究法に共通した研究実施法について、臨床における研究課題（CQ）の設定、倫理の問題、研究計画書の作成、質問調査を例とした実施と質管理の注意点について述べることで研究計画書の作成する上で基本的な知識を習得する。

到達目標

1)質的研究、混合研究による研究論文について、各方法の限界、結果の解釈ができる。
2)保健医療分野の研究課題についてどの研究法が適しているか判断できる 。
3)それぞれの研究法に応じた研究計画や研究報告の特徴について理解する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	保健医療分野での研究方法	① 質的研究と量的研究の特徴、②混合研究法の特徴を理解する。さらに、各研究に共通する③研究の厳密性、信頼性、妥当性、④サンプリング法について知る。	古屋　博行
2	質的研究法の基礎1	質的研究で良く用いられる個人インタビューとフォーカスグループインタビューについて学ぶ。半構造化面接、質的研究の分析法である内容分析とテーマ分析について理解する。	片山　典子
3	質的研究法の基礎2	エスノグラフィーとグランディドセオリー（GTA）について紹介し、GTAから派生したM－GTA，関連する質的統合法（KJ法）について理解する。	片山　典子
4	質的研究法の基礎3	質的データの代表的な分析手法を知り、質的研究法を用いた論文の抄読により各研究手法の特徴と限界について理解を深める。	片山　典子
5	量的研究法1	測定尺度の妥当性と信頼性について理解する、質問調査票（QOL調査）を例として妥当性と信頼性の評価手法を学ぶ。	古屋　博行
6	量的研究法2	実臨床では、ランダム化比較試験のような理想的研究法が困難な場合が多いため、内的妥当性を保った準実験的研究が実施されている。準実験的研究法と、特に単一事例実験デザインについて理解する。	古屋　博行
7	量的研究法3	準実験的研究法と単一事例実験デザインを使用した研究論文を抄読することでそれぞれの研究の特徴を知る。	古屋　博行

8	混合研究法の基礎1	量的研究の実証主義(仮説検定、演繹的)、質的研究の構築主義(帰納的)、混合研究のアブダクションについて解説し混合研究の位置づけ、特徴を理解する.。	片山　典子
9	混合研究法の基礎2	質的、量的研究結果の混合手法(同時並行的デザイン、逐次的デザイン等)の紹介とそれぞれの手法で得られた結果の統合とその解釈例について知る。	片山　典子
10	混合研究法の基礎3	混合研究法を用いた論文の抄読により研究法の特徴と限界について理解を深める。	片山　典子
11	テキスト分析の基礎	テキスト分析で用いられている自然言語処理として、形態素解析、構文解析(係り受け)、共起係数、語句のクラスター分析について説明し、語句抽出、語句間の関係がどのように得られるか理解する。	古屋　博行
12	テキスト分析の実習	実際にKH Coder等の無料で使用できるテキスト分析ソフトを使用して実習し、またテキスト分析を使用した研究報告の抄読を行うことで理解を深める。	古屋　博行
13	研究計画書	臨床研究に係る倫理審査委員会に提出する研究計画書に含まれる項目を知る。さらに質的研究を行う際の注意事項について学ぶ。	古屋　博行
14	研究報告ガイドライン	質的研究、混合研究法による論文の質を担保するため国際的な報告のガイドラインについて知る。研究結果を論文としてまとめる際に役立つだけでなく、論文を抄読する際にチェックすべき要点でもある。	片山　典子
15	EBP、NBM、PX(患者経験価値)	エビデンスに基づく実践(EBP)と個々の患者に重点を置いたNarrative-based Medicine(NBM)、そして組織として患者中心医療実現の指標となりつつあるPX(患者経験価値)について概説する。	古屋　博行

評価	(評価基準)総得点の60%以上をもって合格とする。 受講状況(小レポート、ディスカッション、コメントを含む) 40%、最終レポート(60%)の割合で評価する。
教科書	木原雅子、木原正博訳(2012)『現代の医学的研究方法』 メディカルサイエンスインターナショナル
参考図書 参考WEBページ	各テーマの中で適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	講義形式であるが、文献講読、ディスカッション、レポート発表等を行う。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
保健医療学実践研究	講義	選択	喜多村 健、川本 利恵子、渡部 節子、 片山 典子、山勢 善江、鶴見 隆正、田邉 浩文、増田 雄亮、 大森 圭貢、森尾 裕志、鈴木 雄介
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1・2年次	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】 【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-N③、DP-R③

授業概要

保健医療学に関連する知識を包括的に修得することにより、自己の専門領域にとらわれない幅広い革新的な発想や論理的・創造的思考能力、研究能力を育成するために、看護およびリハビリテーション領域の学生の専門領域の基盤になる、人間の健康に関連する多領域の最新知見やケア方法を教授する。さらに、人の健康支援ケアに関する様々な領域の最新情報を得ることにより、現場における各専門職間あるいは関係機関との連携であるチーム医療及び多職種協働による実践的研究能力を育成する。

到達目標

1）保健医療学の領域および領域における健康上及び生活上の課題を説明できる。
2）保健医療領域の健康課題とその生活の現状分析の方法と支援方法について説明できる。
3）看護やリハビリテーションの臨床フィールドにおける様々な実践現場や事例を紹介し、それらに関連する最新の研究論文を探索できる。
4）様々な実践現場の健康レベルに課題がある人の健康支援の方法について、そのケア方法と効果的な支援方法について説明できる。
5）保健医療領域の分野で話題になっているトピックス、最新実践分野などの今日的課題を探求することができる。
6）チーム医療の現状を理解し、現場における各専門職間あるいは関係機関との連携による実践的研究能力の必要性を理解する。

	テーマ	内容	担当教員
1	保健医療学論とは（序論） 保健医療領域の健康上や生活上の課題	保健医療システムの概要を解説し、科目目標及び内容について教授する。そして、保健医療領域の健康上の課題や生活の課題を広く俯瞰して捉えることの重要性について教授する。さらに、保健医療学での課題を探求する際の論理的思考の重要性、また具体的な支援方法を実践する能力の必要性について教授する。	喜多村　健 川本　利恵子
2	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求①	健康障害を持つ人への支援ケアを行う上での看護上の課題について論ずる。特に、がん患者に行われている治療及びケアについて学ぶ。そして、生活を視点にした健康支援のための実践的ケアのあり方について教授する。	川本利恵子
3	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求②	がん患者に行われている治療法（手術療法・薬物療法など）とその影響および実践的ケアについて、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	川本利恵子
4	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求③	感染予防や治療及びケア方法について振り返り、看護を視点にした実践的ケアのあり方について教授する。感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく支援の方法について論ずる。	渡部　節子
5	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求④	感染に関する基礎知識を基盤とした予防の方法に関する実践的ケアについて、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	渡部　節子
6	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑤	急性期ケアに関する基礎知識を基盤とした実践的ケアについて論じる。さらに、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	山勢　善江

7	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑥	精神的な課題を持つ人のQOLとは、支援の方法と必要性および課題について論じる。さらに、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	片山　典子
8	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑦	急性期やクリティカルケアが必要とされる人へのケア方法と必要性を論じ、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	山勢　善江
9	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑧	中枢神経疾患患者に行われているリハビリテーション介入方法とその効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	田邉　浩文
10	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑨	中枢神経疾患患者に行われているリハビリテーション介入方法であるCI療法とその効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	田邉　浩文
11	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑩	回復期の脳卒中・脳損傷患者に行われているリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	鶴見　隆正 増田　雄亮
12	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑪	高齢者の健康増進および高齢患者のリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	鶴見　隆正 大森　圭貢
13	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑫	心大血管疾患患者の評価およびリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	森尾　裕志
14	実践事例場面を基盤とした現状分析とケアの探求⑬	高次脳機能障害を呈する中枢神経疾患患者に行われている介入方法とその効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。	鈴木　雄介
15	現状分析とケア探求のまとめ	これまで紹介された具体的な実践場面を各自でまず整理し、高度専門職業人に必要な理論と能力及び方法論等について討議する。また、チーム医療と多職種協働を目指した高度専門職業人のあり方についても討議する。	喜多村　健 川本　利恵子 渡部　節子 山勢　善江 片山　典子 鶴見　隆正 田邉　浩文 増田　雄亮 大森　圭貢 森尾　裕志 鈴木　雄介

評価	評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	各領域の実践現場に関連した短報や実践報告、学術論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する実践事例を提示する。授業前に実践事例に関連する論文をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義や討議に挑むこと。

Ⅳ　専門科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
健康支援ケアシステム学特論	講義	選択	川本　利恵子、山勢　善江、渡部　節子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	
2単位（30時間）	15回	1年前期	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP③、D-DP④
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N③、DP-N④

授業概要

健康障害を持つ人の生活をその人の健康レベルに応じて取り戻す実践的な健康支援は主に臨床看護領域のケアの目的である。そこで、臨床看護における研究を学際的な視点から探究し、実践的研究課題について理解を深める。臨床看護フィールドにおける最新の研究、看護実践ケアシステムやチーム医療、看護倫理、感染看護などの分野で話題になっているトピックス、先端医療分野などの今日的課題や日本国民の2人に一人が罹患するといわれているがん患者の病態と早期診断法、さらに集学的治療に伴う身体的影響について取り上げ、影響の分析法とその結果から明らかにされた障害発生の要因について解説し、障害を予防する健康支援ケアの在り方について論じる。

到達目標

1)健康障害を持つ人の生活をその人の健康レベルを取り戻す方法と課題について説明できる。
2)がん患者などの健康レベルに課題がある人の健康支援の方法について、そのケア方法と効果的な支援方法について理解できる。
3)臨床看護フィールドにおける最新の研究、看護実践ケアシステムやチーム医療、看護倫理、感染看護などの分野で話題になっているトピックス、先端医療分野などの今日的課題を探求することができる。

	テーマ	内容	担当教員
1	健康支援ケアシステム論（序論） 臨床看護領域の健康障害と生活上の問題	健康支援ケアシステムの概要を解説し、科目目標及び内容について教授する。また健康障害を持つ人の生活をレベルに応じて取り戻す実践的な健康支援ケアとそのシステムについて論ずる。	川本　利恵子
2	がん患者への治療法とその影響の分析とケア①	がん患者に行われている治療法（手術療法・薬物療法など）に伴う影響について学ぶ。そして、生活を視点にした健康支援のための実践的ケアのあり方について教授する。	川本　利恵子
3	がん患者への治療法とその影響の分析とケア②	がん患者に行われているがん患者の生活を視点にした健康支援のための実践的ケアについて、実践家の立場から理論と方法論等について教授する。	川本　利恵子
4	がん患者の健康支援ケアにおける専門的課題③	がん患者の生活を視点にした健康支援のための実践的ケアについて、最新の論文を紹介し、専門看護師などの専門職の立場から理論と方法論等について論ずる。	川本　利恵子
5	健康障害と健康支援の方法論①	健康障害の発生メカニズムと予防的生活の方法と基本的な生活援助ケアについて論ずる。	川本　利恵子
6	健康障害と健康支援の方法論②	健康障害を持つ人のQOLとは何か、QOLに基づく健康支援の方法と課題について論じる。	川本　利恵子
7	健康障害と健康支援の方法論③	感染看護分野における基本的なケアを取り上げ、臨床での感染防御に必要な基本的ケアの支援の方法の原理原則について論ずる。	渡部　節子

8	健康障害と健康支援の方法論④	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の方法について論ずる。	渡部　節子
9	健康障害と健康支援の方法論⑤	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について論ずる。	渡部　節子
10	健康障害と健康支援の方法論⑥	健康レベルが低下している急性期やクリティカルケアが必要とされる人への健康支援ケアの方法と必要性を解説し、急性期看護学領域における理論と現状を論じる。	山勢　善江
11	健康障害と健康支援の方法論⑦	健康レベルの低下に伴い急性期看護ケアを受けている人の家族へのケアの具体的方法と理論を解説し、家族支援の方法と重要性について論じる。	山勢　善江
12	健康障害と健康支援の方法論⑧	健康レベルが低下している急性期やクリティカルケアが必要とされる人への健康支援ケアの方法と必要性を解説し、急性期看護学領域における理論と現状を論じる。	山勢　善江
13	健康障害と健康支援の方法論⑨	健康障害を持つ人への健康支援ケアを行う上での倫理について、看護上の課題について論ずる。	山勢　善江
14	健康障害と健康支援の方法論⑩	健康障害の発生メカニズム、予防、支援方法と、健康障害を持つ人のQOLや臨床での健康支援の在り方について、討論する。	山勢　善江
15	健康支援ケアとシステムの課題探求	健康障害を持つ人の生活をその人の健康レベルに応じた実践的な健康支援の具体的な方法と臨床看護フィールドにおける看護実践ケアシステムや感染看護、がん看護、急性期看護などの健康支援ケアとシステムの課題を考える。	川本　利恵子 渡部　節子 山勢　善江

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	健康支援ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する学術論文を提示する。授業前に抄録をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
健康支援ケアシステム学演習	演習	選択	川本　利恵子、山勢　善江、渡部　節子、
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
4単位（60時間）	30回	1年後期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N⑤

授業概要

臨床看護フィールドにおける最新の研究、看護実践ケアシステムやチーム医療、看護倫理などの分野で話題になっているトピックス、先端医療分野などの今日的課題を取り上げる。さらに、臨床看護フィールドでの看護実践や支援ケアの方法、実践的な健康支援システムの検討に必要な研究方法について演習を行う。人の健康支援に関する研究手法の演習を行うことによって、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成を行う。さらに、学際的連携による研究手法を学ぶことによっても研究能力を育成する。

到達目標

1）臨床看護のフィールドにおける看護ケアの方法と課題について説明できる。
2）実践的な健康支援ケアシステムの確立に必要な研究方法について理解できる。
3）健康支援ケアの方法とシステムに関するテーマについて討議し、具体的な支援方法を提示できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1・2	健康支援ケア方法とシステムの課題 ①②	健康支援ケア内容とシステムの現状と背景に関連する学術論文を抄読し、課題を抽出していく。	川本　利恵子 山勢　善江 渡部　節子
3・4	健康支援ケア方法とシステムの課題 ③④	健康支援ケアとシステムに関連する学術論文を抄読し合い、ディスカッションを重ねることでリサーチクエッションを明確にしていく。	
5・6	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑤⑥	健康障害の現状と保健医療提供体制のシステムの課題を基に、健康支援ケアとの関連について文献抄読し、多角的に論理的思考に基づき探求する。	
7・8	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑦⑧	がん看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討議する。	
9・10	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑨⑩	がん看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	
11・12	健康支援ケア方法とシステムの課題⑪⑫	がん看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
13.14	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑬⑭	がん看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。③	
15.16	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑮⑯	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討議する。	

17.18	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑰⑱	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	川本　利恵子 山勢　善江 渡部　節子
19.20.	健康支援ケア方法とシステムの課題 ⑲⑳	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
21.22	健康支援ケア方法とシステムの課題 ㉑㉒	感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。③	
23.24	健康支援ケア方法とシステムの課題 ㉓㉔	クリティカルケアなどの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討議する。	
25.26	健康支援ケア方法とシステムの課題 ㉕㉖	クリティカルケアなどの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	
27.28	健康支援ケア方法とシステムの課題 ㉗㉘	クリティカルケアなどの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
29・30	健康支援ケア方法とシステムの課題 ㉙㉚	これまでの議論を基に、臨床での健康支援ケアの方法とシステムの課題について総合的に討論し，さらなる実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。	

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 ディスカッション及びプレゼンテーション50%、毎回の事例演習の課題内容50%の割合で評価する。
教科書	健康支援ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	関連する学術論文を事前に提示する。授業前に抄録をまとめ、内容を理解し、演習に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域生活ケアシステム学特論	講義	選択	本田　芳香、片山　典子、小林　紀明、 碓井　瑠衣、澤井　美奈子、東村　志保
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年前期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP③、D-DP④
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N③、DP-N④

授業概要

地域生活ケアにかかわる理論、地域ケアシステム構築のあり方、地域活動の評価方法などの地域マネジメントを学ぶことにより、地域生活ケア活動への実践能力を修得する。地域生活の場での地域住民のエンパワメントを尊重、および対人支援能力、地域マネジメント能力、健康危機管理能力、組織管理能力の視点から、健康な地域生活支援システム展開のための方法論を解説する。さらに、地域生活支援に必要なケースマネジメント能力のおよび地域住民との協働能力などのケア能力についても論じる。

到達目標

1）地域に在住する高齢者、障害者の生活行動や社会的参加の実態と課題を説明できる。
2）地域における高齢者、障害者に対する生活支援の方法についてに関する問題点と効果的な支援の方法について理解できる。
3）地域マネジメントや地域生活ケア活動や地域生活支援システム展開のための方法論などに関するトピックスや最新情報を取り上げ、今日的課題を探求することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	地域生活ケアとシステムの序論	地域生活支援ケアの内容とシステムの概要を解説し、健康の保持及び予防的な生活を送る上での基本的な生活援助ケアなどの本科目の目指す内容を論じる。	本田　芳香
2	地域生活社会における日常生活動作能力とQOL①	主体的日常生活動作能力の重要性と日常生活におけるQOLとは何か、QOLに基づく日常生活支援の方法と課題について論じる。	本田　芳香
3	地域生活社会における日常生活動作能力と倫理②	生活支援のためのケアを行う上での倫理の重要性と看護上の課題について論ずる。	本田　芳香
4	地域生活ケア管理①：地域生活支援ケアの理論と方法	地域生活ケアにかかわる理論、地域看護ケア提供者の専門性、およびその確立とこれを担保するための活動展開について国内外の知見から教授ずる。	碓井　瑠衣
5	地域生活ケア管理②：地域生活支援人材育成計画と評価	地域で生活する人に対するケースマネジメント能力および地域ケアシステムの運用・評価方法などの実践能力を高めるためのケア開発の実際について教授する。	片山　典子
6	地域生活ケア管理と方法論①	地域で生活する人において、精神機能や認知機能に障害を有する人を対象する重要な支援領域である精神看護学の立場から理論と方法論等について教授する。	片山　典子
7	地域生活ケア管理と方法論②	精神看護分野のケア方法とその開発についての活動展開について国内外の知見から教授し、精神看護分野ケアにおける具体的方法と課題について論ずる。	片山　典子

8	地域生活ケア管理と方法論③	地域生活支援ケアに関して、根拠に基づく実践や方法論および訪問看護の方法論について享受する。	小林　紀明
9	地域生活ケア管理と方法論④	地域生活支援ケアに関して国の政策課題となっているトピックスをとりあげ、特に国の動向と訪問看護活動への影響や方向性について論じる。	小林　紀明
10	地域生活ケアにおけるケースマネジメント①	地域で生活する身体機能低下や障害のある者への生活支援ケアの理論と方法論等について教授する。さらに、身体機能障害を有するケースを紹介して、ケアの具体的方法について論ずる。	東村　志保
11	地域生活ケアにおけるケースマネジメント②	地域で生活する身体機能障害や障害のある者のケア方法とその開発についての活動展開について、国内外の知見から教。授する。さらに、ケアにおける実践的な方法と課題についても論ずる	小林　紀明
12	地域生活ケアにおけるケースマネジメント③	地域で生活する身体機能障害や障害のある者のケア方法とその開発について、身体機能障害など を有するケースを紹介して、生活支援を中心に、その評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などについて論理的、実践的に論ずる。	小林　紀明
13	地域生活支援システムとその方法①	地域社会で生活する人への看護を行うためのシステム構築、評価方法論、技術開発および評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などの原理原則について、論理的、実践的に教授する。	澤井　美奈子
14	地域生活支援システムとその方法②	地域社会で生活する人への国や自治体の政策形成のしくみ、自治体の政策立案や制度の運用・評価方法について教授する、そして、保健師の施策化への関わり方など、システムの円滑な運営方法の実際例を提示し、理解を深める。	澤井　美奈子
15	地域生活ケアとシステムの課題探求	ケースマネジメント能力・施策化への関わり方の具体的方法とその技術の開発方法についても論ずる。ヘルスプロモーション・健康生成論などの社会モデルの観点からも地域生活支援ケアとシステムの課題を考える。	片山　典子 小林　紀明 本田　芳香 碓井　瑠衣 澤井　美奈子 東村　志保

評価	(評価基準)総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	地域生活ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する学術論文を提示する。授業前に抄録をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域生活ケアシステム学演習	演習	選択	本田　芳香、片山　典子、小林　紀明、 碓井　瑠衣、澤井　美奈子、東村　志保
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
4単位（60時間）	30回	1年後期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N⑤

授業概要

地域生活ケアに関する最新の研究や地域活動に関する討議などの演習によって、国内外の地域生活ケア及びシステムにかかわる研究の現状と課題について明らかにする。地域生活へのケアの方法、ケアシステム構築の検討に必要な研究方法についての演習を行う。研究手法の演習を行うことによって、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成とともに、地域の課題の特定、介入方法の明確化、ケアの質の評価などを行う能力を育成する。

到達目標

1）地域生活ケアの方法とシステムの課題について説明できる。、
2）実践的な地域生活ケアシステムの確立に必要な研究方法について理解できる。
3）地域生活ケアの方法とシステムに関する今日的テーマについて討議し、具体的な支援方法を提示できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1・2	地域生活ケアとシステムの課題 ①②	地域生活ケア内容とシステムの現状と背景に関連する学術論文を抄読し、課題を抽出していく。	片山　典子 小林　紀明 本田　芳香 碓井　瑠衣 澤井　美奈子 東村　志保
3・4	地域生活ケアとシステムの課題 ③④	地域生活ケアとシステムに関連する学術論文を抄読し合い、ディスカッションを重ねることでリサーチクエッションを明確にしていく。	
5・6	地域生活ケアとシステムの課題 ⑤⑥	地域生活の現状と保健医療福祉体制のシステムの課題を基に、地域生活支援ケアとの関連について文献抄読し、多角的に論理的思考に基づき探求する。	
7・8	地域生活ケアとシステムの課題 ⑦⑧	地域生活を送る人の精神分野などで話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討議する。	
9・10	地域生活ケアとシステムの課題 ⑨⑩	地域生活を送る人の精神分野などで話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	
11・12	地域生活ケアとシステムの課題 ⑪⑫	地域生活を送る人の身体機能障害などで話題になっているトピックスを取り上げ、地域社会生活での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
13.14	地域生活ケアとシステムの課題 ⑬⑭	地域生活を送る人の身体機能障害などで話題になっているトピックスを取り上げ、地域社会生活での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。③	

15.16	地域生活ケアとシステムの課題 ⑮⑯	訪問看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討議する。	片山　典子 小林　紀明 本田　芳香 碓井　瑠衣 澤井　美奈子 東村　志保
17.18	地域生活ケアとシステムの課題 ⑰⑱	訪問看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	
19.20.	地域生活ケアとシステムの課題 ⑲⑳	訪問看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
21.22	地域生活ケアとシステムの課題 ㉑㉒	訪問看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。③	
23.24	地域生活ケアとシステムの課題 ㉓㉔	地域保健などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討議する。	
25.26	地域生活ケアとシステムの課題 ㉕㉖	地域保健などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。①	
27.28	地域生活ケアとシステムの課題 ㉗㉘	地域保健などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での健康支援の具体的方法と課題について討論し，実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。②	
29・30	地域生活ケアとシステムの課題 ㉙㉚	これまでの議論を基に、地域生活ケアの方法とシステムの課題について総合的に討論し，さらなる実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。	

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 ディスカッション及びプレゼンテーション50%、毎回の事例演習の課題内容50%の割合で評価する。
教科書	地域生活ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する学術論文を提示する。授業前に抄録をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
生涯発達ケアシステム学特論	講義	選択	山﨑　圭子、牛田　貴子、ラウ　優紀子、日下　桃子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年前期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP③、D-DP④
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N③、DP-N④

授業概要

生の誕生から死に向かうまでの人及びその家族のライフサイクルを通じて、人の発達とそのケア、健康および健康問題、性と生殖に関連する健康の諸問題に関する研究の検索を行い、人やその家族を対象とした健康支援や社会資源の活用と開発に必要な理論・実践方法について論ずる。また、グローバルな視点から超少子高齢化社会における健康を理論的に探究し、トピックスや研究成果を紹介し、特別研究における研究テーマに即した課題探求や研究計画作成に必要な基礎についても論じる。

到達目標

1）人の生涯発達をライフサイクルと健康問題に関連づけて説明できる。
2）人の発達とそのケア、健康および健康問題、性と生殖に関連する健康の諸問題について、そのケア方法と効果的な支援方法について理解できる。
3）超少子高齢化社会における健康を理論的に探究し、トピックスや研究成果や最新情報を取り上げ、今日的課題を探求することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	生涯発達ケアシステム論（序論）	人の成長発達に関する概念創出の背景とそのプロセスを教授する。さらに、生涯を通じて関わる健康の構成要素について論ずる。	ラウ　優紀子
2	生涯発達ケアシステムの方法①	生涯発達ケアに関する社会の現状と課題を認識し、生涯発達ケアとシステムの必要性について教授する。成長発達の視点から健康問題やストレスを中心に検討し、新たな理論枠組み、支援の具体的方法の開発について論じる。	ラウ　優紀子
3	生涯発達ケアシステムの方法②	成長発達を基盤とした人のライフサイクルと加齢現象、および健康問題について教授する。さらに次世代育成の連続性を考慮した生物学的アプローチによる効果的な健康支援のあり方について論ずる。	ラウ　優紀子
4	生涯発達ケアシステムにおける家族と社会の相互関係①：家族エンパワーメントモデルに基づく家族看護	健康機能障害を持つ者と家族の健康問題を家族エンパワーメントモデルによってホリスティックに捉え、家族看護の視点から論じる。	牛田　貴子
5	生涯発達ケアシステムにおける家族と社会の相互関係②	成長発達の過程で、家族含む関係性の中でケアを行う相互関係モデルによってホリスティックに捉え、家族看護の視点から論じる。	牛田　貴子
6	生涯発達とケア管理①	環境因子・個人因子との関連から生活支援の方法と生涯発達支援における現状を教授する。	山﨑　圭子
7	生涯発達とケア管理②	生涯を通じた女性の健康について、性周期に伴うストレスや超少子高齢化時代の子どもと親をめぐる現状から、社会資源としての女性保健活動の開発について論ずる。	山﨑　圭子

8	生涯発達とケア管理③	子どもと母親を地域で孤立させないための子育て世代包括支援体制の現状と課題について論じる。	山﨑　圭子
9	生涯発達ケア管理と方法論①	多様性を視野に入れた思春期から更年期に至る母・子とその家族を対象とした健康支援やそれを支援する資源の活用と開発に必要な理論・実践方法について論ず。	山﨑　圭子
10	生涯発達ケア管理と方法論②	誕生から乳幼児，思春期，周産期，更年期のリズム障害と健康などの生涯発達支援における課題を教授する。	日下　桃子
11	生涯発達ケア管理と方法論③	発達理論を活用し、子どもと家族の健康問題とその状況について教授する。子どもと家族の力を引き出すための看護ケアについて論ずる。	日下　桃子
12	生涯発達ケアにおけるケースマネジメント①	老年期におけるウェルネス獲得のための内的条件や外的条件を生涯発達の観点から論理的、実践的に教授する。	ラウ　優紀子
13	生涯発達ケアにおけるケースマネジメント②	発達諸論や家族理論を用いながら、健康障害と家族の健康問題とその状況についてケースを取り上げ、家族の力を引き出すための具体的なケアについて論ずる。	牛田　貴子
14	生涯発達ケアにおけるケースマネジメント③	障害発達の諸論を基盤にしながら、健康問題とその状況をとりあげ、多職種連携によって支援するケースを題材にして、自立支援に向けた具体的なケアとシステムについて論ずる。	ラウ　優紀子
15	生涯発達ケアとシステムの課題探求	ライフサイクルおよび発達論・健康障害モデルの観点から、生涯発達ケアシステムの具体的支援の方法に関する課題を考える。	牛田　貴子 ラウ　優紀子 山﨑　圭子 日下　桃子

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	生涯発達ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する学術論文を提示する。授業前に抄録をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
生涯発達ケアシステム学演習	演習	選択	山﨑　圭子、牛田　貴子、ラウ　優紀子、日下　桃子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
４単位（60時間）	30回	１年後期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N⑤

授業概要

生の誕生から死に向かうまでの人及びその家族のライフサイクルを通じて、人の発達とそのケア、健康および健康問題、性と生殖に関連する健康の諸問題に関する研究の検索を行い、研究の課題を検討する演習を行う。また、生涯発達の視点から人の健康支援に関する高度な研究手法、研究計画について修得するとともに、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成を行う。

到達目標

1）生涯発達ケアの方法とシステムの課題について説明できる。、
2）生涯発達ケアケアシステムの確立に必要な研究方法について理解できる。
3）生涯発達ケアケアの方法とシステムに関する今日的テーマについて討議し、具体的な支援方法を提示できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1・2	生涯発達ケアとシステムの課題 ①②	生涯発達ア内容とシステムの現状と背景に関連する学術論文を抄読し、課題を抽出していく。	牛田　貴子 ラウ　優紀子 山﨑　圭子 日下　桃子
3・4	生涯発達ケアとシステムの課題 ③④	生涯発達ケアとシステムに関連する学術論文を抄読し合い、ディスカッションを重ねることでリサーチクエッションを明確にしていく。	
5・6	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑤⑥	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について文献抄読し、多角的に論理的思考に基づき探求する。	
7・8	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑦⑧	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。①	
9・10	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑨⑩	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。②	
11・12	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑪⑫	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。③	
13.14	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑬⑭	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。④	

15.16	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑮⑯	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑤	牛田　貴子 ラウ　優紀子 山﨑　圭子 日下　桃子
17.18	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑰⑱	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑥	
19.20.	生涯発達ケアとシステムの課題 ⑲⑳	母生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑦	
21.22	生涯発達ケアとシステムの課題 ㉑㉒	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑧	
23.24	生涯発達ケアとシステムの課題 ㉓㉔	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑨	
25.26	生涯発達ケアとシステムの課題 ㉕㉖	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑩	
27.28	生涯発達ケアとシステムの課題 ㉗㉘	生涯発達ケアとシステムの課題を基に、生涯発達支援ケアとの関連について、多角的に論理的思考に基づき探求する。特に、話題になっているトピックスを取り上げ、臨発達の過程での健康支援の具体的方法と課題について討議する。⑪	
29・30	生涯発達ケアとシステムの課題 ㉙㉚	これまでの議論を基に、生涯発達ケアの方法とシステムの課題について総合的に討論し，さらなる実践・研究および教育の能力の育成と向上を図る。	

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 ディスカッション及びプレゼンテーション50%、毎回の事例演習の課題内容50%の割合で評価する。
教科書	生涯発達ケアとシステムに関連した学術論文、特に英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前に関連する学術論文を提示する。授業前に抄録をまとめ、プレゼン及び質問可能なレベルまで準備し講義に挑むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域生活支援学特論	講義	選択	山田　拓実、大森　圭貢、小林　和彦、鈴木　雄介、田島　明子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
２単位（30時間）	１５回	１年前期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00−18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D−DP)】	D−DP①、D−DP③、D−DP④
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP−R)】	DP−R①、DP−R③、DP−R④

授業概要

地域在宅における高齢者、障害者の生活行動や社会的参加などの現状と課題をリハビリテーション医療の視点で分析する。また地域在宅高齢者及び障害者の生活支援あるいは高次脳機能障害者の生活支援の実践を多角的に学修する。

到達目標

1）地域に在住する高齢者、障害者の生活行動や社会的参加の実態と課題を説明できる。
2）地域における高齢者、障害者に対する生活支援の方法についてに関する問題点と効果的な支援の方法について理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	地域生活支援学総論（序論）	地域在住高齢者の効果的な介護予防の取り組み、介護保険サービス利用者がより主体的な生活行動を獲得するためのADL指導などを中心に、その評価とアプローチ法などについて解説し教授する。	山田　拓実
2	主体的日常生活動作能力の獲得①	地域在住高齢者の効果的な介護予防の取り組み、介護保険サービス利用者がより主体的な生活行動を獲得するためのADL指導などを中心に、その評価とアプローチ法などについて解説し教授する。	山田　拓実
3	主体的日常生活動作能力の獲得②	地域在住高齢者の効果的な介護予防の取り組み、介護保険サービス利用者がより主体的な生活行動を獲得するためのADL指導などを中心に、その評価とアプローチ法などについて解説し教授する。	山田　拓実
4	主体的日常生活動作能力の獲得③	地域在住高齢者の効果的な介護予防の取り組み、介護保険サービス利用者がより主体的な生活行動を獲得するためのADL指導などを中心に、その評価とアプローチ法などについて解説し教授する。	山田　拓実
5	主体的日常生活動作能力の獲得④	地域在住高齢者の効果的な介護予防の取り組み、介護保険サービス利用者がより主体的な生活行動を獲得するためのADL指導などを中心に、その評価とアプローチ法などについて解説し教授する。	山田　拓実
6	地域生活支援の方法論（環境因子と個人因子）	高齢者や疾患者の地域生活支援として、移動動作の低下がもたらす問題と動作再獲得の重要性をICFと照らし合わせて教授する。	大森　圭貢
7	地域生活支援と理学療法①	高齢者や疾患者の地域生活支援として、移動動作の低下がもたらす問題の解決の方法論をICFと照らし合わせて教授する。	大森　圭貢

8	地域生活支援と理学療法②	高齢者や疾患者に対する地域生活支援について、移動動作に対する理学療法の現状と課題を分析し、教授する。	大森　圭貢
9	地域生活支援と理学療法③	高齢者や疾患者に対する地域生活支援について、移動動作に対する理学療法の理論と実践的展開を教授する。	大森　圭貢
10	地域生活支援と理学療法④	地域高齢者がより主体的な生活行動を獲得するADL指導などを、身体的機能や認知機能の低下を有する者を対象として、主に応用行動分析学の立場から理論と方法論等について教授する。	小林　和彦
11	地域生活支援と高次脳機能障害患者支援①	地域で生活する高次脳機能障害者の社会的役割の獲得などを踏まえた生活支援を中心に、その評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などについて論理的、実践的に教授する。	鈴木　雄介
12	地域生活支援と高次脳機能障害患者支援②	地域で生活する高次脳機能障害者の社会的役割の獲得などを踏まえた生活支援を中心に、その評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などについて論理的、実践的に教授する。	鈴木　雄介
13	地域生活支援と高次脳機能障害患者支援③	地域で生活する高次脳機能障害者の社会的役割の獲得などを踏まえた生活支援を中心に、その評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などについて論理的、実践的に教授する。	鈴木　雄介
14	地域生活支援と高次脳機能障害患者支援④	地域で生活する高次脳機能障害者の社会的役割の獲得などを踏まえた生活支援を中心に、その評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などについて論理的、実践的に教授する。	鈴木　雄介
15	地域生活支援と作業療法	ヘルスプロモーション・健康生成論・障害学・障害の社会モデルの観点から地域生活支援の課題を考える	田島　明子

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	地域生活支援に関連した主な英文誌原著論文を用いる。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので、必ず翻訳して目を通し、質問事項を準備して授業に臨んでください。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域生活支援学演習	演習	選択	山田　拓実、大森　圭貢、小林　和彦、鈴木　雄介、田島　明子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
４単位（60時間）	30回	１年後期	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R⑤

授業概要

地域生活支援学特論で修得した理論を軸として、地域在宅における高齢者、障害者の生活行動や社会的参加などの具体的な事象や事例を通じて、実践的な考察を深め、地域における高齢者、障害者生活支援に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求していく。

到達目標

地域生活支援の各種事例に対して、具体的な支援研究方法を知るために、次の到達目標を設定する。
1）中枢神経疾患及び運動器疾患の事例に対して、問題点を具体化するとともに改善方法について探求できる。
2）地域生活支援に関するテーマについて発表、討議し、具体的な支援方法を提示できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1・2	地域生活者の実態と課題 論文抄読1・2, ディスカッション	要介護者・障害者の推移、疾病構造の変遷を踏まえ、リハビリテーションの視点と医療社会保険システムとの関連を文献抄読し、問題点や課題を明確にする。	山田　拓実
3・4	地域生活者の実態と課題 論文抄読3・4, ディスカッション	地域生活者の実態と課題を基にリハビリテーションの視点と医療社会保険システムとの関連を文献抄読し、多角的に討議し、解決案を思考する。	山田　拓実
5・6	地域生活者支援のシステムと効用 論文抄読5・6, ディスカッション	医療システムと介護保険システムの連携と、他の社会資源を活用した障害者の地域生活者支援の理想的なアプローチを文献的かつ実践的に討議学修する。	山田　拓実
7・8	地域生活者支援のシステムと効用 論文抄読7・8, ディスカッション	地域生活者と医療・介護保険システムの連携と、他の社会資源を活用した要介護者・障害者の地域生活者支援の理想的なアプローチを文献的かつ実践的に討議学修する。	山田　拓実
9・10	地域生活支援の方法の現状（心身機能・構造） 論文抄読9・10, ディスカッション	心身機能・構造への介入による地域生活者の生活支援に関する文献抄読し、効果と課題を討議する。	山田　拓実
11・12	高齢者を中心とした機能・能力障害を捉えるための理学療法評価に関する事例検討 論文抄読11・12, ディスカッション	移動動作と心身機能・身体構造の関連を検討した論文を抄読し、移動動作の再獲得を図るうえで評価・把握すべき妥当な心身機能・身体構造の評価を討議する。	大森　圭貢
13.14	高齢者を中心とした機能・能力障害を捉えるための理学療法評価に関する事例検討 論文抄読13・14, ディスカッション	移動動作と活動・参加の関連を検討した論文を抄読し、移動動作とともに評価・把握すべき活動・参加の状況について討議する。	大森　圭貢

15.16	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読15･16, ディスカッション	パーキンソン病などの中枢神経疾患を有する地域在住者に対する心身機能･身体構造への介入を行った論文を抄読し、支援の理論と実践を討議する 。	大森　圭貢
17.18	運動機能障害に関する事例検討 論文抄読17･18, ディスカッション	パーキンソン病などの中枢神経疾患を有する地域在住者に対する活動･参加への介入を行った論文を抄読し、支援の理論と実践を討議する。	大森　圭貢
19.20.	地域在住高次脳機能障害患者への生活支援に関する問題点の具体化と改善方法の探求 論文抄読19･20, ディスカッション	地域在住の高次脳機能障害者の生活支援の具体的実践事例から医学･社会学･心理学的な視点から生活行動や社会参加に対する支援の方法と課題を議論する。	鈴木　雄介
21.22	地域在住高次脳機能障害患者への生活支援に関する問題点の具体化と改善方法の探求 論文抄読21･22, ディスカッション	地域在住の高次脳機能障害者の生活支援の具体的実践事例から医学･社会学･心理学的な視点から生活行動や社会参加に対する支援の方法と課題を議論する。	鈴木　雄介
23.24	地域在住高次脳機能障害患者への生活支援に関する問題点の具体化と改善方法の探求 論文抄読23･24, ディスカッション	地域在住の高次脳機能障害者の生活支援の具体的実践事例から医学･社会学･心理学的な視点から生活行動や社会参加に対する支援の方法と課題を議論する。	鈴木　雄介
25.26	地域在住高次脳機能障害患者への生活支援に関する問題点の具体化と改善方法の探求 論文抄読25･26, ディスカッション	地域在住の高次脳機能障害者の生活支援の具体的実践事例から医学･社会学･心理学的な視点から生活行動や社会参加に対する支援の方法と課題を議論する。	鈴木　雄介
27.28	地域生活支援とリハビリテーション 論文抄読27･28, ディスカッション	障害学･障害の社会モデル･パーソンセンタードケア･権利モデルにまつわる関連文献を紹介し、実践課題を討議する。	田島　明子
29･30	地域生活支援とリハビリテーション 論文抄読29･30, ディスカッション	施設、在宅における認知症高齢者や障害高齢者の生活支援に関して、主として応用行動分析立場からの関連文献を紹介し、実践課題を討議する。	小林　和彦

評価	(評価基準)総得点の60%以上をもって合格とする。 ディスカッション及びプレゼンテーション50%、毎回の事例演習の課題内容50%の割合で評価する。
教科書	授業に関連した主な英文誌原著論文を事前に配布します。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前･事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので, 必ず翻訳して目を通し, 質問事項を準備して授業に臨んでください。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
身体機能支援医療学特論	講義	選択	田邉　浩文、増田　雄亮、山田　拓実、森尾　裕志、 柴田 昌和、櫻井 好美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	1年前期	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP③、D-DP④
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-R①、DP-R③、DP-R④

授業概要

身体機能の回復を図る支援医療の視点から、中枢神経疾患や心血管疾患、呼吸器疾患、骨関節疾患など身体障害系疾患および高齢者やスポーツ障害者等を科学的に評価し、身体機能を回復させるための治療原理・実践的な方法論に関して論じる。また、身体の構造と機能及び身体機能の解析に関する理論の展開も行う。

到達目標

様々な疾病・傷害に対する心身機能障害の評価と治療に関する研究手法について理解を深めることを目標に、次の到達目標を設定する。
1）身体機能障害に対する治療効果の判定と治療法に関する最新の知見を知る。
2）科学的手法による研究成果を，学術的背景に基づき発表できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	中枢神経疾患における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読1，ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の身体機能の回復に関する英文誌論文を発表し，脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、具体的な治療法の選択と意思決定方法について論文を批判的に吟味し、ディスカッションをする。	田邉　浩文 増田　雄亮
2	中枢神経疾患における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読2，ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の身体機能の回復に関する英文誌論文を発表し，脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、具体的な治療法の選択と意思決定方法について論文を批判的に吟味し、ディスカッションをする。	田邉　浩文 増田　雄亮
3	中枢神経疾患における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読3，ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、眼前の対象者と協業しながらエビデンスの高い治療を適用し、この効果を判定するまでの一連のプロセスについて学習し、ディスカッションをする。	田邉　浩文 増田　雄亮
4	中枢神経疾患におけるロボット工学を応用した身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読4，ディスカッション	担当教員が示す脳血管疾患の身体機能の回復を図るリハビリテーションを支援する工学の応用に関する英文誌論文を発表し，効果的なアプローチ実践方法について講義し，ディスカッションをする。	田邉　浩文
5	ジストニアにおける身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読5，ディスカッション	ジストニアの身体機能回復に関する英文誌症例報告論文を発表し，その評価法、介入方法についてディスカッションをする。	田邉　浩文
6	高齢者における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読6，ディスカッション	担当教員が示す虚弱高齢者の身体機能の回復に関する英文誌論文を発表し，虚弱高齢者における運動機能障害を理解し、理学療法評価と介入方法、根拠に基づく理学療法アプローチ、これらの科学的な実践方法について協議する。	山田　拓実
7	高齢者における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読7，ディスカッション	担当教員が示す虚弱高齢者の身体機能の回復に関する英文誌論文を発表し，虚弱高齢者における運動機能障害を理解し、理学療法評価と介入方法、根拠に基づく理学療法アプローチ、これらの科学的な実践方法について協議する。	山田　拓実
8	高齢者における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読8，ディスカッション	担当教員が示す虚弱高齢者の身体機能の回復に関する論文を発表し，虚弱高齢者における運動機能障害を理解し、理学療法評価と介入方法、根拠に基づく理学療法アプローチ、これらの科学的な実践方法について協議する。	山田　拓実

9	高齢者における身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読9, ディスカッション	担当教員が示す虚弱高齢者の身体機能の回復に関する論文を発表し, 虚弱高齢者における運動機能障害を理解し、理学療法評価と介入方法、根拠に基づく理学療法アプローチ、これらの科学的な実践方法について協議する。	山田　拓実
10	心疾患患者における身体および精神的健康度の機能回復 論文抄読10, ディスカッション	循環器疾患患者を想定し、心肺運動負荷試験を実践する。測定で得られた指標から、循環機能と身体運動機能について、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
11	高齢心不全患者における身体および精神的健康度の機能回復論 文抄読11, ディスカッション	心不全を中心とした循環器疾患のリハビリテーションに関して、循環機能と身体運動機能、および日常生活機能を包括して捉えた介入の原則について、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
12	虚弱高齢者における身体および精神的健康度の機能回復 論文抄読12, ディスカッション	高齢心不全患者やフレイル、サルコペニアなどの虚弱高齢者を想定し、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
13	臨床症状と身体構造	運動障害を基本的な筋・骨格の構造および神経系の解析を形態学的な視点で分析を加え、筋・神経系の障害発生を解剖学的なモデルで理論的に分析して構造や機能の理解を深め、臨床症状と関連づけを理論的に考察する。	柴田　昌和
14	運動力学的評価手段・身体機能の解析方法と臨床応用	日常生活動作の運動学的特徴と運動力学的要求、運動力学的評価のための機器設定と適切な三次元動作測定方法、身体運動の力学的データの解釈と臨床応用に向けたデータの活用方法の理解を深め、臨床症状と関連づけ理論的に考察できる力を修得する。	櫻井　好美
15	運動力学的評価手段・身体機能の解析方法と臨床応用	日常生活動作の運動学的特徴と運動力学的要求、運動力学的評価のための機器設定と適切な三次元動作測定方法、身体運動の力学的データの解釈と臨床応用に向けたデータの活用方法の理解を深め、臨床症状と関連づけ理論的に考察できる力を修得する。	櫻井　好美

評価	(評価基準)総得点の60%以上をもって合格とする。 講義・討議参加への積極性及び内容の理解度50%、レポート課題の内容50%の割合で評価する。
教科書	講義に関連した主な英文誌原著論文を事前に配布する。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた英文図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので、必ず翻訳して目を通し、質問事項を準備して授業に臨んでください。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
身体機能支援医療学演習	演習	選択	田邉　浩文、増田　雄亮、山田　拓実、森尾　裕志、 柴田 昌和、櫻井 好美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
４単位（60時間）	30回	１年後期	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R⑤

授業概要

身体機能支援医療学特論で修得した理論を軸として、中枢神経疾患患者や心血管疾患、骨関節疾患患者など身体障害系疾患および高齢者やスポーツ障害患者等の具体的な事象や事例を通じて、実践的な考察を深め、運動機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求していく。

到達目標

身体機能障害の各種事象・事例に対して、具体的な介入研究方法を知るために、次の到達目標を設定する。
1）神経系疾患および運動器・循環器疾患の事例に対して、問題点を具体化するとともに改善方法について探求できる。
2）事例研究成果を学術的背景に基づき解釈し発表できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1・2	脳血管障害事例に対する効果判定指標の理解と批判的吟味 文献抄読1・2, ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、効果判定として用いられている尺度の信頼性・妥当性・臨床的意義などについて学習する。調べた内容について発表し、ディスカッションをする。	田邉　浩文 増田　雄亮
3・4	脳血管障害事例に対するエビデンスに基づいた身体機能回復アプローチの選択と意思決定 文献抄読3・4, ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、治療法の選択と意思決定方法について学習する。特に、新しい治療法を一事例に適用した事例研究論文を取り上げ、ディスカッションをする。	田邉　浩文 増田　雄亮
5・6	脳血管障害事例に対するエビデンスに基づいた身体機能回復アプローチの適用と評価 文献抄読5・6, ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、眼前の対象者と協業しながらエビデンスの高い治療を適用し、この効果を判定するまでの一連のプロセスについて学習する。	田邉　浩文 増田　雄亮
7・8	脳血管障害事例に対するエビデンスに基づいた身体機能回復アプローチの適用と評価 文献抄読7・8, ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、眼前の対象者と協業しながらエビデンスの高い治療を適用し、この効果を判定するまでの一連のプロセスについて学習する。	田邉　浩文 増田　雄亮
9・10	脳血管障害事例に対するエビデンスに基づいた身体機能回復アプローチの適用と評価 文献抄読9・10, ディスカッション	脳血管障害に対するエビデンスに基づいたリハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、眼前の対象者と協業しながらエビデンスの高い治療を適用し、この効果を判定するまでの一連のプロセスについて学習する。	田邉　浩文 増田　雄亮
11・12	高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読11・12, ディスカッション	虚弱高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復リハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、治療法の選択と意思決定方法について学習する。特に、新しい治療法を一事例に適用した事例研究論文を取り上げ、ディスカッションをする。	山田　拓実
13.14	高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読13・14, ディスカッション	虚弱高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復リハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、治療法の選択と意思決定方法について学習する。特に、新しい治療法を一事例に適用した事例研究論文を取り上げ、ディスカッションをする。	山田　拓実

15.16	高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読15･16, ディスカッション	虚弱高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復リハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、治療法の選択と意思決定方法について学習する。特に、新しい治療法を一事例に適用した事例研究論文を取り上げ、ディスカッションをする。	山田　拓実
17.18	高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復の評価とアプローチ実践方法 論文抄読17･18, ディスカッション	虚弱高齢者に対するエビデンスに基づいた身体機能回復リハビリテーション実践と新たなエビデンスの創出に向けて、事例研究（報告）論文を抄読し、治療法の選択と意思決定方法について学習する。特に、新しい治療法を一事例に適用した事例研究論文を取り上げ、ディスカッションをする。	山田　拓実
19.20.	心疾患患者における身体および精神的健康度の評価とアプローチ実践方法 論文抄読19･20, ディスカッション	循環器疾患患者を想定し、心肺運動負荷試験を実践する。測定で得られた指標から、循環機能と身体運動機能について、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
21･22	高齢心疾患患者における身体および精神的健康度の評価とアプローチ実践方法 文抄読21･22, ディスカッション	心疾患を中心とした循環器疾患のリハビリテーションに関して、循環機能と身体運動機能、および日常生活機能を包括して捉えた介入の原則について、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
23･24	虚弱高齢者における身体および精神的健康度の評価とアプローチ実践方法 論文抄読23･24, ディスカッション	高齢心疾患患者やフレイル、サルコペニアなどの虚弱高齢者を想定し、事例検討や調査研究・介入研究・英文誌レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。	森尾　裕志
25･26	身体構造・機能面から考える障害の状態と治療 論文抄読25･26, ディスカッション	骨・筋・神経の運動器において文献レビュー等のデータを解析し、各自が構造・機能の面から障害の状態や治療および効果について実践的な考察、まとめ、発表が出来る演習を教授する。	柴田　昌和
27･28	三次元動作計測・床反力測定器を用いた力学的分析・データ解析演習 文献抄録27, 28ディスカッション	三次元動作計測に関する文献レビュー及び三次元動作計測や床反力測定器を用いた力学的分析、慣性データの解析、関節モーメントの解析を演習して、運動機能と動作解析との体系化を教授する。	櫻井　好美
29･30	三次元動作計測・床反力測定器を用いた力学的分析・データ解析演習 文献抄録29, ディスカッション	三次元動作計測に関する文献レビュー及び三次元動作計測や床反力測定器を用いた力学的分析、慣性データの解析、関節モーメントの解析を演習して、運動機能と動作解析との体系化を教授する。	櫻井　好美

評価	（評価基準）総得点の60%以上をもって合格とする。 ディスカッション及びプレゼンテーション50%、毎回の事例演習の課題内容50%の割合で評価する。
教科書	授業内容に関連した主な原著論文を事前に配布します。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を提示する。
事前・事後学習 留意事項	抄読論文は事前に提示しますので，必ず目を通し，質問事項を準備して授業に臨んでください。

Ⅴ　特別研究科目

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	川本　利恵子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

看護学領域から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。
7)研究成果を国内外の学術誌に投稿することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	臨床看護領域での研究に必要な基礎的知識を確認する。健康課題に影響を与える生体の維持機構と疾病の発症機序の理解、さらに健康増進および疾病治療に必要とされる最新の生命科学的知識・医療技術を解説しつつ、医療看護の現状と課題を教授する。	川本　利恵子
2～10	研究課題の決定	臨床看護領域における健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	川本　利恵子
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	川本　利恵子
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	川本　利恵子
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	川本　利恵子
35～38	研究計画のプレゼンおよび他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	川本　利恵子

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	川本　利恵子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	川本　利恵子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	川本　利恵子
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	川本　利恵子
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	川本　利恵子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	石川　眞里子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（石川眞理子教員研究室）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

生涯発達ケア看護領域から病院施設内や施設外における障害を持った小児に対する小児看護に関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	生涯発達ケア看護領域での研究に必要な基礎的知識を確認し、小児看護にかかわる諸理論と小児看護に必要とされる最新の科学的知識・技術を解説するとともに、現状と課題を教授する。	石川　眞里子
2～10	研究課題の決定	生涯発達ケア看護領域における健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	石川　眞里子
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。生涯発達ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	石川　眞里子
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	石川　眞里子
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	石川　眞里子
35～38	研究計画の発表および他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	石川　眞里子

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	石川　眞里子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	石川　眞里子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	石川　眞里子
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	石川　眞里子
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	石川　眞里子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰ およびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	牛田　貴子、ラウ　優紀子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

生涯発達看護学領域（特に家族看護学および老年看護学分野）から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。
7)研究成果を国内外の学術誌に投稿することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	生涯発達看護学領域での研究に必要な基礎的知識を確認する。特に家族の発達課題理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論等による家族の理解、および家族看護介入の実際について解説しつつ、特に高齢者看護や施設看護における看護と介護の現状と課題を教授する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
2～10	研究課題の決定	生涯発達看護学領域における健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う	牛田　貴子 ラウ　優紀子
35～38	研究計画のプレゼンおよび他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	牛田　貴子 ラウ　優紀子

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	牛田　貴子 ラウ　優紀子
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	牛田　貴子 ラウ　優紀子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰ およびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	片山　典子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

精神保健および精神看護学領域、特に地域で生活する精神障害者、早期精神病、アディクションなどから研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。
7)研究成果を国内外の学術誌に投稿することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	地域生活ケア領域の研究に必要な基礎的知識を確認する。特に精神保健および精神看護学領域にかかわる諸理論やシステム構築のあり方、メンタルヘルスの維持増進および精神障害者に必要とされる最新の科学的知識・医療技術を解説しつつ、精神看護学の現状と課題を教授する。	片山　典子
2～10	研究課題の決定	地域生活ケア領域における精神保健および精神的健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	片山　典子
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	片山　典子
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	片山　典子
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	片山　典子
35～38	研究計画のプレゼンおよび他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	片山　典子

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	片山　典子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	片山　典子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	片山　典子
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	片山　典子
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	片山　典子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰ およびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	本田　芳香
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	80回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

看護学教育又は看護教育学に関連する興味・関心より、国内外の文献検討を幅広く行い、その累積した学修成果を活用して研究課題の焦点化をはかる。必要な予備的研究および試験的研究を含む研究計画書を作成する。研究計画立案、研究倫理の承認、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察、発表など一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・発信する。また研究者として自立して研究活動を行い、その専門性を探求するために必要な研究能力と看護専門 職としての研究的態度を修得する。

到達目標

1).国内外の幅広い文献検討より自らの研究課題を探求し、課題解明の必然性と意義を説明できる。
2)文献検討結果より研究目的・研究意義を論理的に記述し、概念枠組みを構築できる。
3)研究デザイン、研究対象、対象の選定条件、選定方法、データ収集方法、データ分析方法、倫理的配慮などについて再現可能性のある適切な方法を考案し、研究計画書を作成できる。
4)研究計画書に基づき実施し、博士論文を作成できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～8	文献検討/研究課題の明確化	自分の関心領域に関する国内外の研究を通して、看護学教育又は看護教育学に関わる課題について多角的に文献検討を行う。研究課題に関連する論文クリティークしプレゼンテーションを行う。関連文献の研究成果の統合を踏まえ、自己のリサーチクェスチョンを記述し、看護実践のエビデンス生成に研究課題に関する知見を深め、意義ある研究課題を明らかにする。	本田　芳香
9～20	概念分析/研究計画書作成	研究課題に関連する概念の検討、類似概念検討により概念分析を必要時行い、研究枠組みを構築する。また研究課題に適した有用な理論・モデルの整理及び測定指標等の研究方法を検討し、研究計画書を作成する。	本田　芳香
21～30	倫理審査申請書作成/承認	研究デザイン、研究対象、対象の選定条件、選定方法、データ収集方法、データ分析方法を包含した倫理審査申請書を作成し受審し、倫理申請の承認を得る。	本田　芳香
31～36	研究計画書の完成	倫理審査の結果を踏まえ、修正後研究計画書の修正を行い完成させる。	本田　芳香
37～40	研究計画書発表会	計画書のプレゼンテーションを行い、様々な視点から助言を得る機会となる。助言内容より、さらに研究課題の究明及び計画書の修正を行う。	本田　芳香
41～50	予備的研究及び試験的研究	予備的研究及び試験的研究を実施し、研究計画書の妥当性を確認し必要時修正を行う。対象者選定枠組みを決定し、検出力を算定して標本数を決定する。	本田　芳香

51～60	データ収集・データ分析結果	研究フィールドにて、対象募集の方法を具体的に考え、実現可能性を追究し、データ収集を実施sるる。研究データの信頼性、妥当性を高めるための工夫を検討する。	本田　芳香
61～76	博士論文作成	研究データ分析結果の妥当性及び考察を探究する。	本田　芳香
77～80	博士論文公開審査	論文審査を兼ねた発表会を行う。	本田　芳香

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	別途提示する。
参考図書 参考WEBページ	授業時に適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	無し

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	村嶋　幸代、小林　紀明、澤井　美奈子、東村　志保
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

地域生活ケア看護領域から地域の高齢者への在宅看護や公衆衛生看護に関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	地域生活ケア看護領域での研究に必要な基礎的知識を確認し、地域看護及び公衆衛生看護にかかわる諸理論やシステム構築と実践的スキルについて教授する。地域看護及び公衆衛生看護に必要とされる最新の科学的知識・技術を解説するとともに、現状と課題教授する。	村嶋　幸代 小林　紀明 澤井　美奈子 東村　志保
2～10	研究課題の決定	地域生活ケア看護領域における健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	
35～38	研究計画の発表および他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	村嶋　幸代 小林　紀明 澤井　美奈子 東村　志保
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	山﨑　圭子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

ウイメンズヘルス看護領域（社会環境やライフサイクルの変化に伴う女性特有の健康課題など）、助産学および母性看護領域（妊娠・出産・育児などにかかわるリプロダクティブヘルスの問題など）から研究テーマを選び、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発や看護ケアを効果的に提供するためのケアシステムの開発等に寄与する研究を行う。
博士論文の作成においては、研究テーマに関する国内外の文献検討を踏まえて研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表までの一連の研究過程を修得する。特に、研究計画、データ収集方法、倫理審査受審への対応、データー分析、考察および結論への論理的な組み立てについては、指導教員および副指導教員からの指導を受けながら進める。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	ウィメンズヘルス、助産学、母性看護領域の研究に必要な社会背景、女性のライフサイクルとキャリア、女性ホルモンの変化、不妊症などが健康課題に影響を与える機序の理解および現状について基礎的知識を確認する。	山﨑　圭子
2～10	研究課題の決定	ウィメンズヘルス、助産学、母性看護領域における健康問題への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	山﨑　圭子
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	山﨑　圭子
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	山﨑　圭子
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	山﨑　圭子
35～38	研究計画の発表および他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	山﨑　圭子

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	山﨑　圭子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	山﨑　圭子
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山﨑　圭子
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	山﨑　圭子
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	山﨑　圭子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	山勢　善江
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】		DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

看護学領域から救急・クリティカルケアに関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。
7)研究成果を国内外の学術誌に投稿することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	健康支援に関する研究（特に救急・クリティカルケア）に必要な基礎的知識を確認する。健康課題に影響を与える生体の維持機構と疾病の発症機序の理解、さらに健康増進および疾病治療に必要とされる最新の生命科学的知識・医療技術を解説しつつ、医療看護の現状と課題を教授する。	山勢　善江
2～10	研究課題の決定	健康支援における問題（特に救急・クリティカルケア）への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	山勢　善江
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	山勢　善江
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	山勢　善江
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	山勢　善江
35～38	研究計画のプレゼンおよび他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	山勢　善江

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	山勢　善江
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	山勢　善江
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山勢　善江
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	山勢　善江
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	山勢　善江

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
看護学特別研究	講義・演習・実習	選択	渡部　節子、碓井　瑠衣
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻看護学領域(DP-N)】	DP-N①、DP-N②、DP-N③、DP-N④、DP-N⑤

授業概要

看護学領域から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。
研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。

到達目標

1)研究課題が明確にできる。
2)研究計画の立案ができる。
3)研究倫理の重要性を理解する。
4)研究計画に基づき研究を実施できる。
5)研究結果の分析・解釈にもとづき考察ができる。
6)研究の一連の過程を博士論文としてまとめることができる。
7)研究成果を国内外の学術誌に投稿することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	研究に必要な基盤知識	健康支援に関する研究（特に感染看護）に必要な基礎的知識を確認する。健康課題に影響を与える生体の維持機構と疾病の発症機序の理解、さらに健康増進および疾病治療に必要とされる最新の生命科学的知識・医療技術を解説しつつ、医療看護の現状と課題を教授する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
2～10	研究課題の決定	健康支援における問題（特に感染看護）への興味・関心をリサーチクエッションとして、研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、看護学の発展や向上に寄与すると予測される研究テーマを決定する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
11～20	研究計画の立案	研究テーマに関する文献検討などに基づき研究計画を作成する。健康支援ケア分野の研究方法論に則り、研究意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討し、研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
21～26	研究計画書の作成と倫理申請及び受審	研究計画書に基づき、所定の様式に基づき倫理申請書を作成する。湘南医療大学大学倫理委員会を受審し、研究の承認を得る。	渡部　節子 碓井　瑠衣
27～34	研究計画書の最終完成	倫理委員会からの指摘事項に基づき、研究計画の見直しと修正を行う。	渡部　節子 碓井　瑠衣
35～38	研究計画のプレゼンおよび他者評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	渡部　節子 碓井　瑠衣

35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を行い、再度研究計画を見直し、確認しながら研究実施計画を検討する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。結果のまとめに基づいて、必要時、追加調査や実験を行い、検討する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	渡部　節子 碓井　瑠衣
61～72	博士論文作成	再分析や検討を繰り返しながら博士論文を作成する。	渡部　節子 碓井　瑠衣
72～75	研究論文の発表および公開審査による評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を国内外の学術誌および博士論文発表会において発表し、最終試験として公開審査を受審し評価を受ける。	渡部　節子 碓井　瑠衣

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰ およびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	特に指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じて文献や書籍等を紹介する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表会を開催し、論文の完成度を高める。中間発表会や論文審査は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	田邉　浩文、坂上　昇
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、中枢神経疾患等の身体麻痺に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	身体機能回復リハビリテーションへの興味・関心から研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	田邉　浩文 坂上　昇
5～10	研究課題の決定	身体機能回復リハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	田邉　浩文 坂上　昇
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、身体機能医療支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	田邉　浩文 坂上　昇
21～26	研究計画書の作成	身体機能医療支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	田邉　浩文 坂上　昇
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	田邉　浩文 坂上　昇
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	田邉　浩文 坂上　昇
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	田邉　浩文 坂上　昇

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	田邉　浩文 坂上　　昇
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	田邉　浩文 坂上　　昇
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	田邉　浩文 坂上　　昇

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	大森　圭貢、小林　和彦
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
１０単位（150時間）	75回	１年～３年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、地域在住の高齢者および疾患者が有する心身機能・身体構造、ADL、そして生活行動と生活支援・社会的参加等への支援の課題を明確にして、当該領域の課題を明らかにする。それとともに、その課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い、博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて、大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を習得し、リハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	地域高齢者の生活行動と生活支援・社会的参加等について、興味・関心の強い研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	大森　圭貢 小林　和彦
5～10	研究課題の決定	地域生活支援におけるリハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	大森　圭貢 小林　和彦
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、地域生活支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	大森　圭貢 小林　和彦
21～26	研究計画書の作成	地域生活支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	大森　圭貢 小林　和彦
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	大森　圭貢 小林　和彦
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	大森　圭貢 小林　和彦
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	大森　圭貢 小林　和彦

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	大森　圭貢 小林　和彦
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	大森　圭貢 小林　和彦
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	大森　圭貢 小林　和彦

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	鈴木　雄介、鶴見　隆正
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
１０単位（150時間）	75回	１年～３年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、身体機能障害者の就労支援や地域生活支援に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	身体機能回復リハビリテーションへの興味・関心から研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
5～10	研究課題の決定	身体機能回復リハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、身体機能医療支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
21～26	研究計画書の作成	身体機能医療支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	鈴木　雄介 鶴見　隆正
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	鈴木　雄介 鶴見　隆正

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（ⅠおよびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	森尾　裕志、柴田　昌和
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、心血管疾患・運動機能回復に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	身体機能回復リハビリテーションへの興味・関心から研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	森尾　裕志 柴田　昌和
5～10	研究課題の決定	身体機能回復リハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	森尾　裕志 柴田　昌和
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、身体機能医療支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	森尾　裕志 柴田　昌和
21～26	研究計画書の作成	身体機能医療支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	森尾　裕志 柴田　昌和
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	森尾　裕志 柴田　昌和
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	森尾　裕志 柴田　昌和
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	森尾　裕志 柴田　昌和

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	森尾　裕志 柴田　昌和
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	森尾　裕志 柴田　昌和
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	森尾　裕志 柴田　昌和

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	山田　拓実、田島　明子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
１０単位（150時間）	75回	１年～３年通年	水曜日12:10ー13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）

対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】	D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】	DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、高齢者の運動機能回復　運動器・呼吸器疾患などの身体機能回復に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	身体機能回復リハビリテーションへの興味・関心から研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	山田　拓実 田島　明子
5～10	研究課題の決定	身体機能回復リハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	山田　拓実 田島　明子
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、身体機能医療支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	山田　拓実 田島　明子
21～26	研究計画書の作成	身体機能医療支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	山田　拓実 田島　明子
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	山田　拓実 田島　明子
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	山田　拓実 田島　明子
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	山田　拓実 田島　明子

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	山田　拓実 田島　明子
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	山田　拓実 田島　明子
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	山田　拓実 田島　明子

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰ およびⅡ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
リハビリテーション学特別研究	講義・演習・実習	選択	増田　雄亮、櫻井　好美
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
10単位（150時間）	75回	1年～3年通年	水曜日12:10－13:10、開講曜日17:00-18:00 東戸塚キャンパス研究室（科目担当教員）
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻(博士後期課程)(D-DP)】		D-DP①、D-DP②、D-DP③、D-DP④、D-DP⑤
対応するディプロマポリシー（DP）	【保健医療学専攻ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学領域(DP-R)】		DP-R①、DP-R②、DP-R③、DP-R④、DP-R⑤

授業概要

本過程で履修した特論や演習を基盤に、脳血管疾患患者の機能回復や生活支援に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。

到達目標

1)研究計画の立案ができる
2)研究を実施できる。
3)研究結果の解釈ができる。
4)研究データを博士論文としてまとめることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～4	研究課題の検討	身体機能回復リハビリテーションへの興味・関心から研究テーマの絞り込みを行う。批判的文献レビューを集積し、関連研究分野等も含めた多角的視野を有しつつ、リハビリテーション学の発展に寄与する研究課題を精選する。	増田　雄亮 櫻井　好美
5～10	研究課題の決定	身体機能回復リハビリテーションの現状分析に関わる情報を収集、分析し、研究課題を決定する。	増田　雄亮 櫻井　好美
11～20	研究計画の立案	研究課題をより明確にし、身体機能医療支援に関わるエビデンスを背景として研究計画を立案する。	増田　雄亮 櫻井　好美
21～26	研究計画書の作成	身体機能医療支援の研究方法論に則り、研究経緯と意義及び目的、研究対象、方法、仮説を検討して研究計画書および研究倫理審査申請書を作成する。	増田　雄亮 櫻井　好美
27～34	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。受けた評価に基づき、研究計画の修正を行う。	増田　雄亮 櫻井　好美
35～38	研究計画に基づいたプレテスト	研究計画に基づいたプレテスト等を検討し、研究を進める。	増田　雄亮 櫻井　好美
39～50	調査・介入と分析、結果、考察の展開	研究計画に基づき研究を実施する。途中、定期的に発表・討議を行い、研究目的に合致した研究を遂行する。	増田　雄亮 櫻井　好美

51～60	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に検討し、まとめる。	増田　雄亮 櫻井　好美
61～72	博士論文作成	結果のまとめに基づいて、追加の調査・実験や検討を行い、再分析を繰り返しながら博士論文を作成する。	増田　雄亮 櫻井　好美
73～75	研究論文の発表および評価	博士論文の完成に基づいて、その成果を博士論文発表会において発表し、最終試験として評価を受ける。	増田　雄亮 櫻井　好美

評価	研究計画・プロダクトの評価（10%）、中間発表会（Ⅰおよび Ⅱ）でのプレゼンテーション(10%)、博士論文審査結果（70%）、学位論文発表会でのプレゼンテーション（10%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考図書 参考WEBページ	適宜、必要に応じた図書等を指示する。
事前・事後学習 留意事項	中間発表や論文発表会は公開を原則とする。

Ⅵ　教員一覧

研究科長

氏名	職位	メールアドレス
喜多村　健	研究科長／教授	kitamura.oto@tmd.ac.jp

看護学領域教員

氏名	職位	メールアドレス
川本　利恵子	副研究科長／教授	rieko.kawamoto@sums.ac.jp
石川　眞理子	教授	mariko.ishikawa@sums.ac.jp
牛田　貴子	教授	takako.ushida@sums.ac.jp
片山　典子	教授	noriko.katayama@sums.ac.jp
小林　紀明	教授	noriaki.kobayashi@sums.ac.jp
本田　芳香	教授	yoshika.honda@sums.ac.jp
村嶋　幸代	教授	sachiyo.murashima@sums.ac.jp
山崎　圭子	教授	keiko.yamazaki@sums.ac.jp
山勢　善江	教授	yoshie.yamase@sums.ac.jp
ラウ　優紀子	教授	yukiko.lau@sums.ac.jp
渡部　節子	教授	setsuko.watabe@sums.ac.jp
碓井　瑠衣	准教授	rui.usui9312@gmail.com
澤井　美奈子	准教授	minako.sawai@sums.ac.jp
東村　志保	准教授	shiho.higashimura@sums.ac.jp
日下　桃子	助教	momoko.kusaka@sums.ac.jp

リハビリテーション学領域教員

氏名	職位	メールアドレス
田邉　浩文	副研究科長／教授	hirofumi.tanabe@sums.ac.jp
大森　圭貢	教授	yoshitsugu.omori@sums.ac.jp
小林　和彦	教授	kazuhiko.kobayashi@sums.ac.jp
坂上　昇	教授	noboru.sakanoue@sums.ac.jp
柴田　昌和	教授	masakazu.shibata@sums.ac.jp
鈴木　雄介	教授	yusuke.suzuki@sums.ac.jp
田島　明子	教授	akiko.tajima@sums.ac.jp
鶴見　隆正	教授	takamasa.tsurumi@sums.ac.jp
森尾　裕志	教授	yuji.morio@sums.ac.jp
山田　拓実	教授	takumi.yamada@sums.ac.jp
櫻井　好美	准教授	yoshimi.sakurai@sums.ac.jp
増田　雄亮	准教授	yusuke.masuda@sums.ac.jp

薬学部教員

氏名	職位	メールアドレス
古屋　博行	教授	hiroyuki.furuya@sums.ac.jp

非常勤講師

氏名	職位	メールアドレス
稲川　英嗣	非常勤講師	必要に応じて別途通知
大林　雅之	非常勤講師	必要に応じて別途通知
小柳　正司	非常勤講師	必要に応じて別途通知
竹内　文乃	非常勤講師	必要に応じて別途通知
竹本　与志人	非常勤講師	必要に応じて別途通知